

2022 年度授業評価アンケート実施報告

【はじめに】

2022 年度のアンケートは Web 回答方式に変更して 3 年目の実施となり、今年度も皆様のご協力のもと、滞りなく実施することができました。

前年度から課題としていたアンケートの回収率について、回答の周知を徹底することで改善が見られた科目もありますが、全体としては低い状況が続いています。

引き続き、アンケートの回収率を上げるための方策について検討をしていきます。

また、2023 年度はアンケートに関する全体的な見直しを実施する予定ですので、皆様からのアンケートに対するご意見もいただけますと幸いです。

最後に、授業評価アンケート実施にあたりご協力いただきました多くの学生、教職員の皆さまに心よりお礼申し上げます。

【アンケート実施の目的】

学生による授業評価アンケートは、学生の視点から授業改善の手がかりを探り、個々の授業改善につなげることで教育の質を向上させることを目的とする。

【アンケートの概要】

1. 実施方法

原則、全科目を対象とし、授業最終日にアンケート方式により実施した。ただし、匿名性担保のため、履修人数が 10 名以下の科目は対象外とした。

2. アンケートの回答方法

T-navi にログインし、Web 上で回答する方法とした。

3. アンケート設問項目

1) 講義、演習用

(1) 学部、大学院看護栄養学研究科：選択式 12 問及び自由記載（「良かった点」「改善してほしい点」「その他、授業に関する意見・要望」）

(2) 助産研究科：選択式 15 問及び自由記載（「良かった点」「改善してほしい点」）

2) 臨地実習用

(1) 学部、大学院看護栄養学研究科：選択式 9 問及び自由記載（「良かった点」「改善してほしい点」「その他、授業に関する意見・要望」）

(2) 助産研究科：実習科目ごとに助産研究科で検討し、毎年度 4 月の FSDS 委員会で承認する。

4. アンケート結果の集計

アンケート集計表の作成は、日本通信紙株式会社に委託し、前期と後期・通年科目と分

けて集計した。

1) 設問項目別回答分布表 :

人数、選択肢ごとの平均、前期又は後期開講科目全体の平均

2) 回答分布 : 100%積み上げ縦棒グラフ

3) 評価レーダーチャート :

選択肢ごとの平均、前期又は後期開講科目全体の平均

ただし、設問 12 はレーダーチャートから外すこととする。

その他、アンケート結果の解釈・判断のため、「回収率」を表示する。

4) アンケートに対する科目責任者のコメントについて

科目責任者のコメント欄は、「自由記載に対するコメント」及び「結果全体に対するコメント」欄に分け、「結果全体に対するコメント」欄は、全科目責任者が記載することとした。

「自由記載に対するコメント」は、回答が必要と科目責任者が判断した内容について抽出し、その回答とあわせて記載した。なお、自由記載は学生には公開されないため、コメントを記載する際は、どんな意見であったかも必ず記載する。

記載にあたっては、Excel 版の集計表を事務局から科目責任者にメールで配信し、それぞれの欄に入力して返信する方法をとった。

5. アンケート集計速報の閲覧について

Web 方式となったことに伴い、回答期間終了後すぐに、学生は自身の履修科目の集計結果(グラフ)を、教員は自身の担当科目の集計結果及び自由記載が閲覧可能である。

6. 授業の改善を図るための取り組み

平均点が 3.0 未満の低評価の設問が 2 つ以上ある科目があった場合、委員会での審議を経て科目責任者の教員に対して、原因の分析および具体的な改善計画を立案し、授業改善計画書としてまとめ提出することとした。

7. アンケート結果の公表

1) 科目ごとの PDF ファイルを、教職員には学内 LAN 掲示板、学生には GoogleDrive に掲載して公開する。

2) 科目責任者が非常勤講師の場合は、FDSD 委員会事務局担当からメールで配付する。

【別紙1 アンケート質問項目】

学部、大学院看護栄養学研究科 講義・演習用（選択肢 12 問、自由記載 3 問）

	質問項目	評価の選択肢
①	授業概要を読んで科目の概要、目標が理解できた	①理解できた ②ある程度理解できた ③あまり理解できなかった ④理解できなかった
②	授業の評価方法は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
③	授業は、授業概要の計画通りに進められた	①計画通りだった ②ある程度計画通りだった ③多少計画とは違った ④計画とは違った
④	教材、参考文献の提示は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑤	授業の方法（グループワーク、演習、視聴覚教材等の活用）は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑥	教員は学生の質問・発言に適切に応答していた	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑦	授業で要求される作業量（レポート、課題など）は適切であった（③あまり適切ではなかった又は④適切ではなかったを選択した方は、⑬にその理由を記載してください）	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑧	授業の内容を理解できた	①理解できた ②ある程度理解できた ③あまり理解できなかった ④理解できなかった
⑨	授業によって、自分の考えを深めることができた	①深めることができた ②ある程度深めることができた ③あまり深めることができなかった ④深めることができなかった
⑩	授業によって、さらに学びを広げたいと感じた	①広げたいと感じた ②ある程度広げたいと感じた ③あまり広げたいと感じなかった ④広げたいと感じなかった

⑪	授業全般を通し、この授業に満足した	①満足した ②ある程度満足した ③あまり満足しなかった ④満足しなかった
⑫	1回の授業に対してどの程度自己学習（予習・復習・課題を含む）を行いましたか	①2時間以上 ②1時間以上2時間未満 ③30分以上1時間未満 ④30分未満
⑬	設問⑦で選択肢③あまり適切ではなかった又は選択肢④適切ではなかったを選択した方は、その理由（多い、少ないなども含めて）を記載してください。	
⑭	この授業について、良かった点を記載してください。	
⑮	この授業について、改善してほしい点を記載してください。	
⑯	その他、この授業に関する意見・要望があれば記載してください。	

学部、大学院看護栄養学研究科 臨地実習用（選択肢9問、自由記載3問）

	質問項目	評価の選択肢
①	オリエンテーションの内容は適切でしたか	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
②	この科目における実習の目的や目標は明確でしたか	①明確だった ②ある程度明確だった ③あまり明確ではなかった ④明確ではなかった
③	教員や指導者は、学生を尊重し、真剣に関わりましたか	①関わった ②ある程度関わった ③あまり関わらなかった ④関わらなかった
④	教員と指導者は、連携をとりながら指導しましたか	①連携していた ②ある程度連携していた ③あまり連携していなかった ④連携していなかった
⑤	実習課題や記録物の量は適切でしたか	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑥	教員や指導者に相談や質問ができる体制が整っていましたか	①整っていた ②ある程度整っていた ③あまり整っていなかった ④整っていなかった
⑦	実習に使用する教材、参考文献の提示は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑧	あなたは、実習に積極的に取り組みましたか	①十分にできた ②ある程度できた ③あまりできなかった ④できなかった
⑨	あなたは、実習の目標を達成できましたか	①達成できた ②ある程度達成できた ③あまり達成できなかった ④達成できなかった
⑩	この授業について、良かった点を記載してください。	
⑪	この授業について、改善してほしい点を記載してください。	
⑫	その他、この授業に関する意見・要望があれば記載してください。	

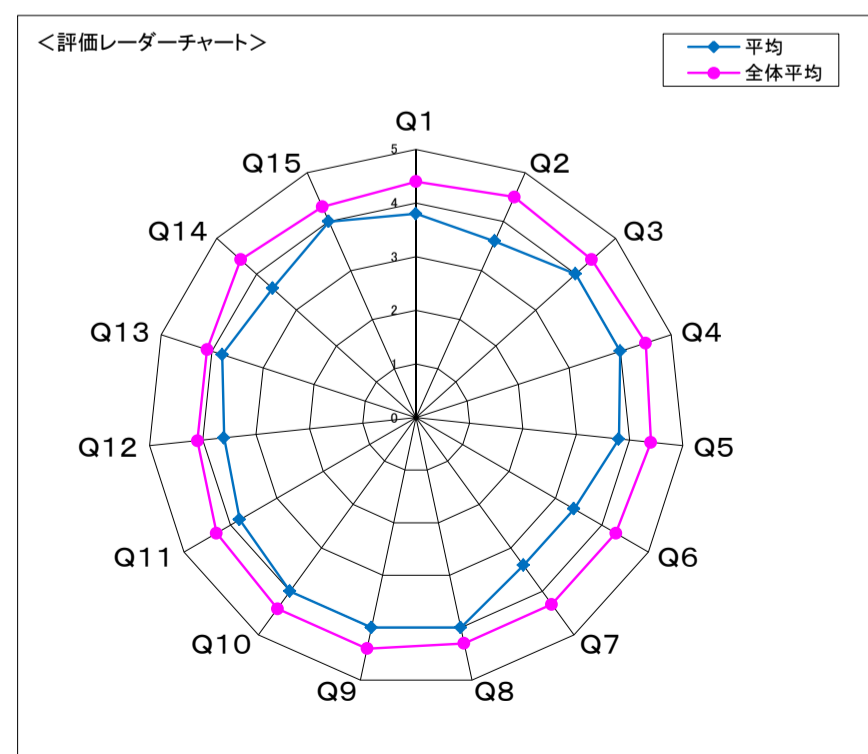
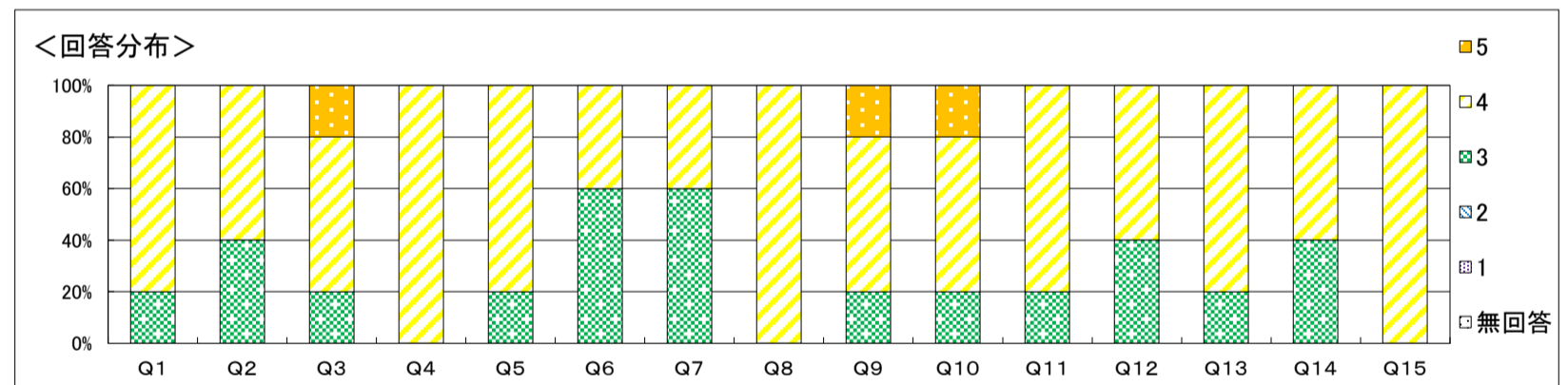
とてもそう思う（４）、ある程度そう思う（３）、あまりそう思わない（２）、そう思わない（１）

①	シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた。
②	授業の構成は体系的に行われていた。
③	授業の時間数は適切だった。
④	授業の進行は適切だった。
⑤	授業方法、形態（対話・討論型授業、ワークグループなど）は適切だった。
⑥	視聴覚教材（黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど）は理解の促進に効果的だった。
⑦	授業内容はわかりやすく説明されていた。
⑧	授業で要求される作業量（レポート、宿題など）は適切だった。
⑨	教員は効果的に院生の参加（発言、自己学習、作業など）を促した。
⑩	教員は院生の質問・発言等に適切に対応した。
⑪	自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した。
⑫	自分は指定図書を活用し、授業に参加した。
⑬	自分は授業の事前・事後学習（課題を含む）を行った。
⑭	自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた。
⑮	自分は授業の履修目標は達成できた。
⑯	この授業について、良かった点を記載してください。
⑰	この授業について、改善してほしい点を記載してください。

科目名	(500001) 4000012F11100100 助産学概論		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	基礎1年	回収数	5人
必修・選択の別	必修	回収率	20.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	4	1	0	-	0	3.8	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	3	2	0	-	0	3.6	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	1	3	1	0	-	0	4.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	0	5	0	0	-	0	4.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	4	1	0	-	0	3.8	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	2	3	0	-	0	3.4	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	2	3	0	-	0	3.4	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	5	0	0	-	0	4.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	1	3	1	0	-	0	4.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	1	3	1	0	-	0	4.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	4	1	0	-	0	3.8	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	3	2	0	-	0	3.6	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	4	1	0	-	0	3.8	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	3	2	0	-	0	3.6	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	5	0	0	-	0	4.0	4.3



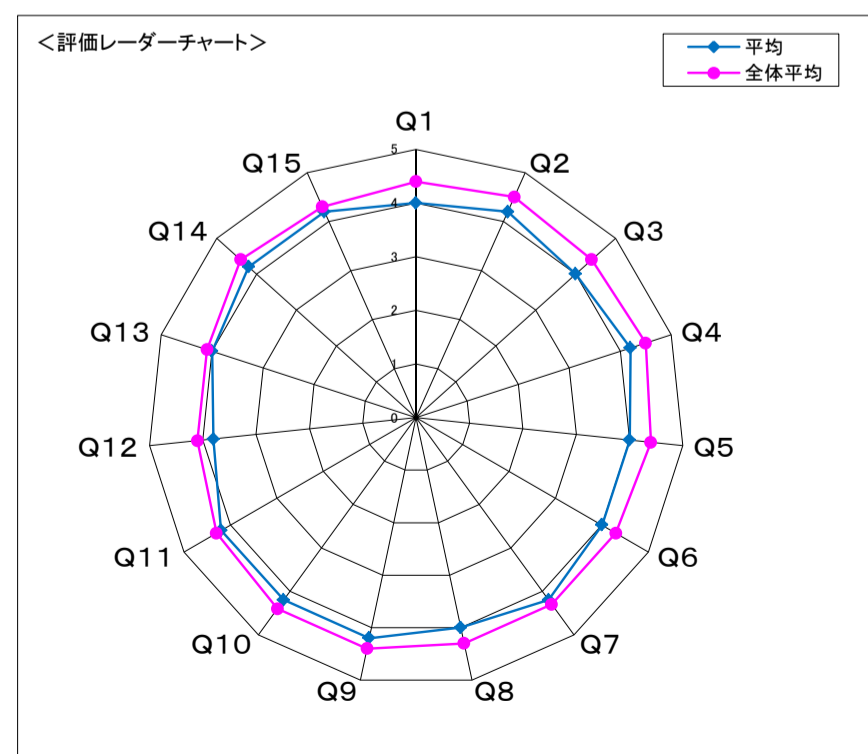
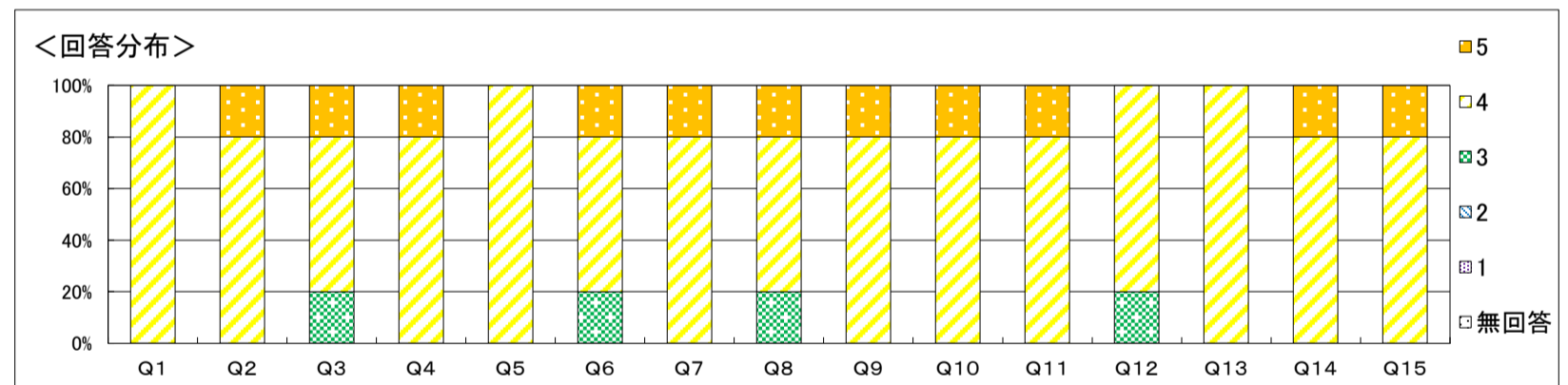
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 概論の授業は、抽象度が高い話になるので、議論に対する現実感が乏しいと感じる人はいると思います。実践レベルとのつながりとして理解を深めてもらえるような工夫を検討しています。

科目名	(500002) 4000022F11100400 出産の文化		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	基礎1年	回収数	5人
必修・選択の別	必修	回収率	20.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	5	0	0	-	0	4.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	1	3	1	0	-	0	4.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	1	4	0	0	-	0	4.2	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	5	0	0	-	0	4.0	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	3	1	0	-	0	4.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	3	1	0	-	0	4.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	4	1	0	-	0	3.8	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	5	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.3



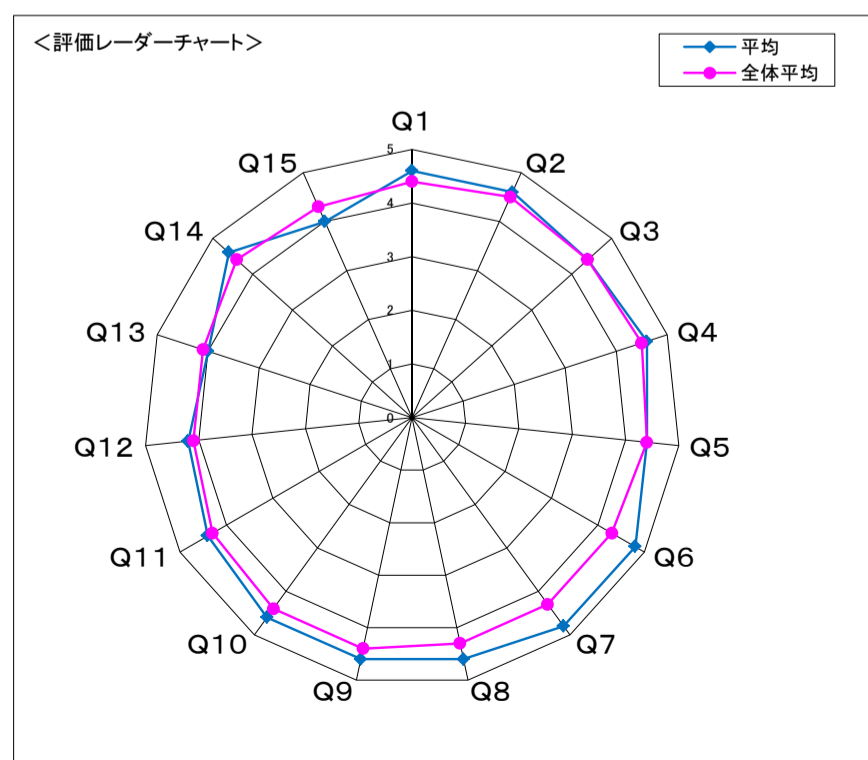
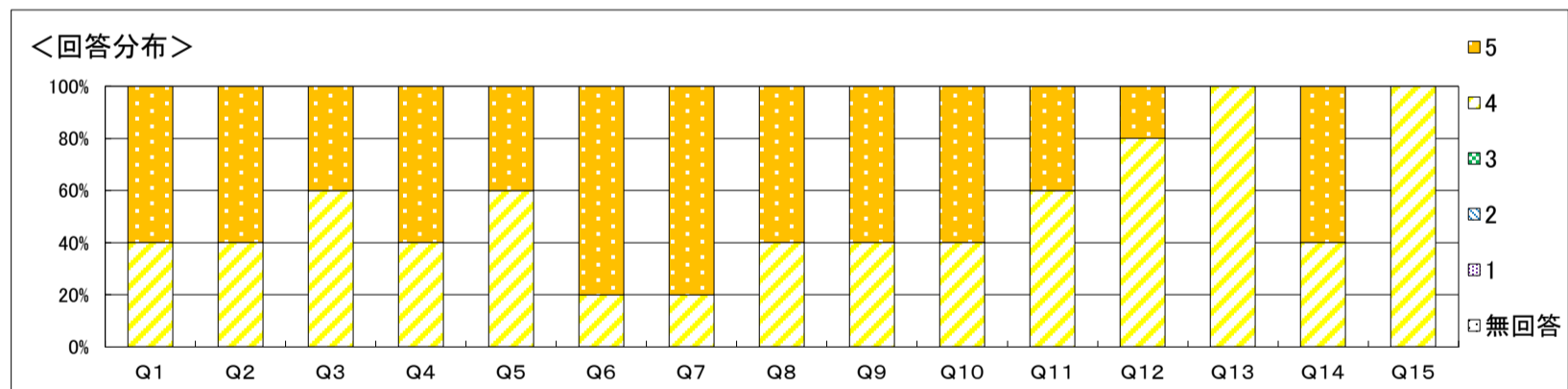
自由記載に関するコメント
 レポートの提出期日について記載があった。前期の時間割がタイトであることから出た記載と思われる。提出期日については今後検討したい。

結果全体に対するコメント
 回収率が20.8%であることから全体評価としての分析は困難である。回答した院生5人の授業評価に対するコメントとなるが、学修内容に関心をもって積極的に授業に参加しており、履修目標が達成できたとの自己評価であった。

科目名	(500003) 4000032F11200100 女性のフィジカルイグザミネーション		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	基礎1年	回収数	5人
必修・選択の別	必修	回収率	20.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	2	0	0	-	0	4.6	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	3	2	0	0	-	0	4.6	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.4
4. 授業の進行は適切だった	3	2	0	0	-	0	4.6	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	4	1	0	0	-	0	4.8	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	4	1	0	0	-	0	4.8	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	3	2	0	0	-	0	4.6	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	3	2	0	0	-	0	4.6	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	3	2	0	0	-	0	4.6	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	2	3	0	0	-	0	4.4	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	5	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	3	2	0	0	-	0	4.6	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	5	0	0	-	0	4.0	4.3



自由記載に関するコメント

適宜知識の確認をしたことの評価が得られている。内容を精選し、今後も授業内で活用したいと考えています。

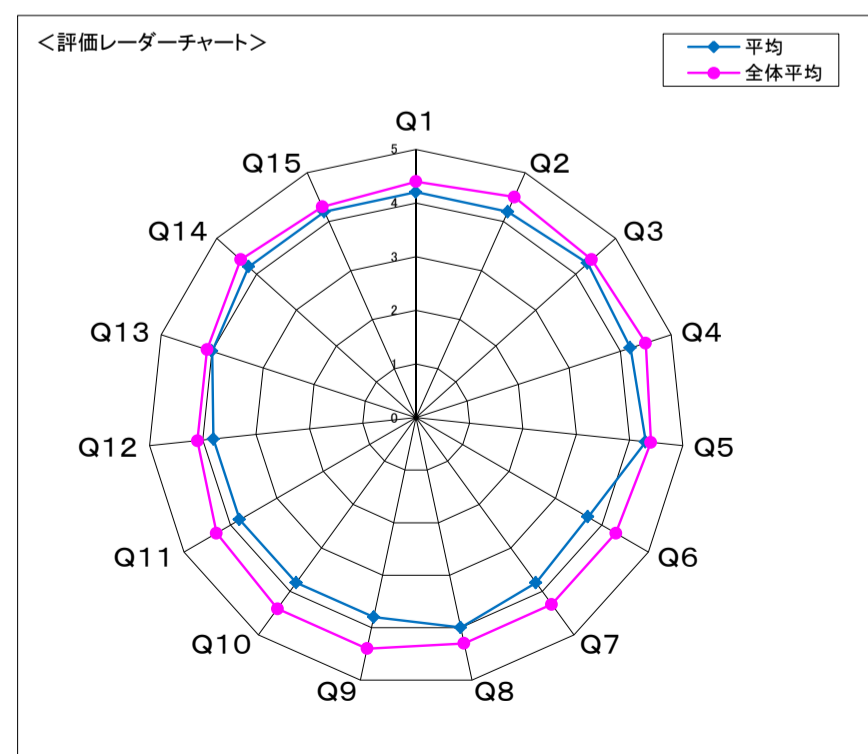
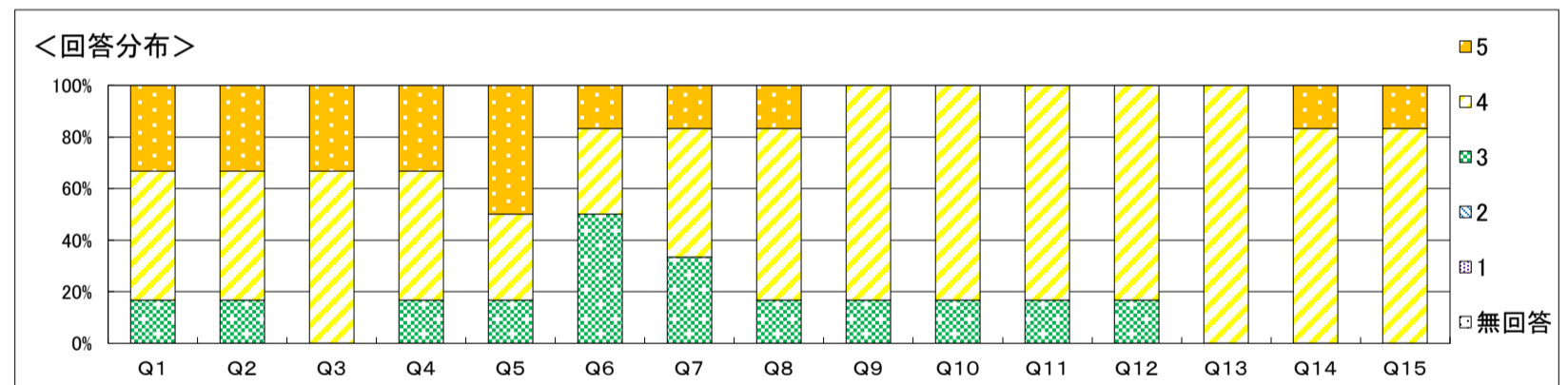
結果全体に対するコメント

到達目標に向け、授業の事前・事後の学習を主体的に継続できるように、知識の確認を効果的に活用していきたいと思ひます。演習科目のため、実践的で、他の科目と連動する意識を持つことができる授業となるように工夫していきたいと思ひます。

科目名	(500004) 4000042F11200200 助産薬理学 I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	基礎1年	回収数	6人
必修・選択の別	必修	回収率	25.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	2	3	1	0	-	0	4.2	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	2	3	1	0	-	0	4.2	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	2	4	0	0	-	0	4.3	4.4
4. 授業の進行は適切だった	2	3	1	0	-	0	4.2	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	3	2	1	0	-	0	4.3	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	2	3	0	-	0	3.7	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	3	2	0	-	0	3.8	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	4	1	0	-	0	4.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	6	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	5	0	0	-	0	4.2	4.3



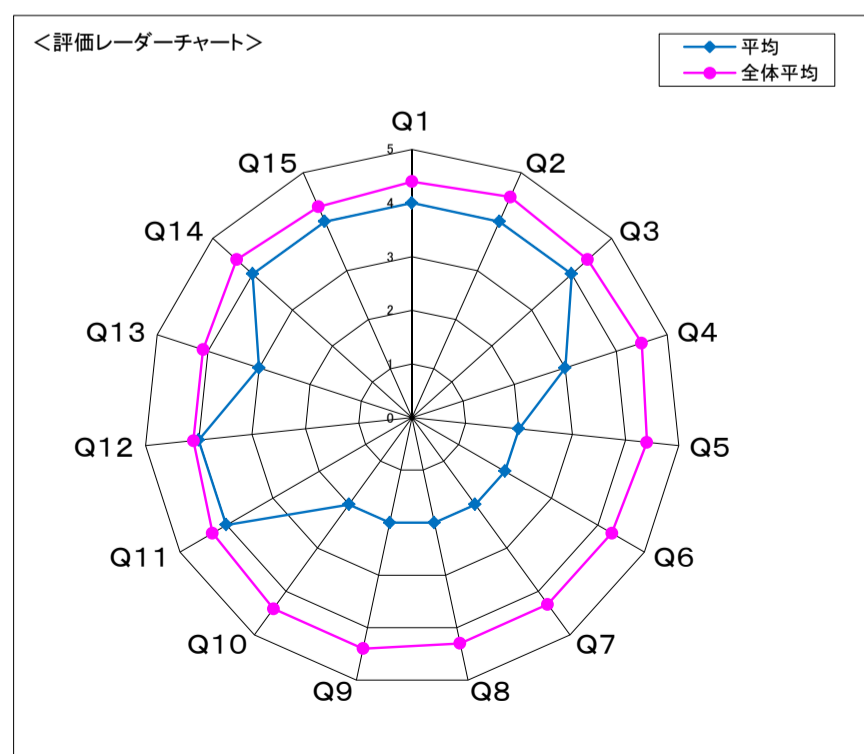
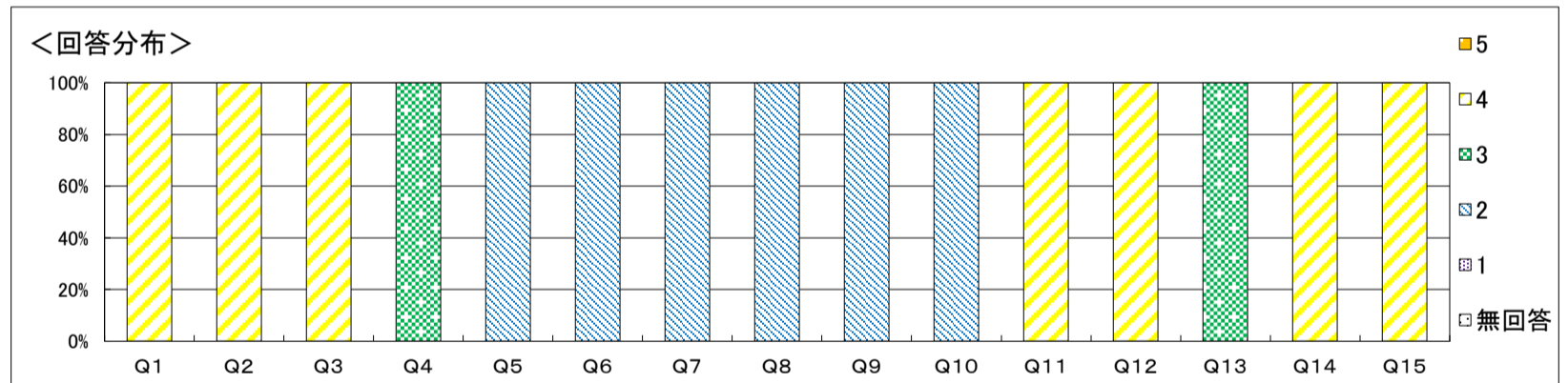
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 回答者が少なかったのは、残念な結果でした。外部講師の医師を講師として実施して、理解を深めることができていると思いました。

科目名	(500005) 4000052F11200300 助産薬理学Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	7.1%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	0	0	1	0	-	0	3.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	0	0	1	-	0	2.0	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	0	0	1	-	0	2.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	0	0	1	-	0	2.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	0	0	1	-	0	2.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	0	0	1	-	0	2.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	0	0	1	-	0	2.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	0	1	0	-	0	3.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3



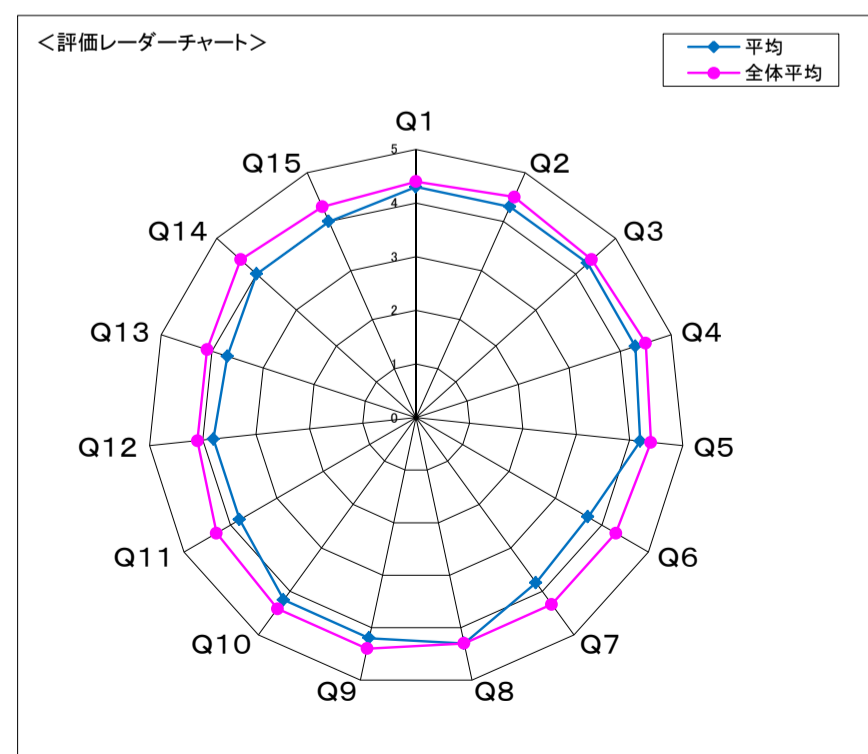
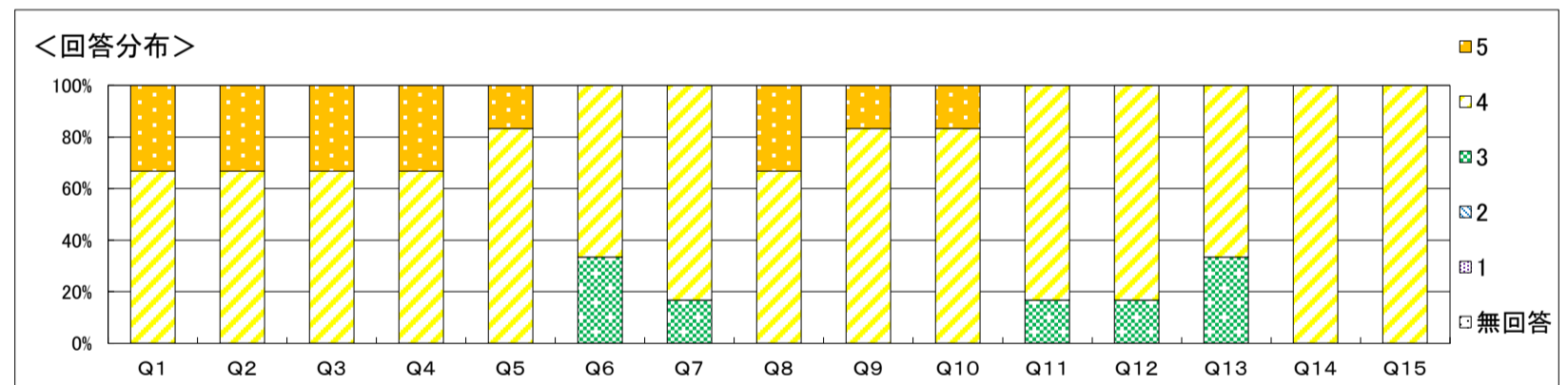
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 一人の学生の回答で残念でした。主に外部講師の医師からの薬理学の講義でした。理解が深まる工夫が必要であると思いました。

科目名	(500006) 4000062F11200400 妊産褥婦乳幼児の栄養		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	基礎1年	回収数	6人
必修・選択の別	必修	回収率	25.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	2	4	0	0	-	0	4.3	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	2	4	0	0	-	0	4.3	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	2	4	0	0	-	0	4.3	4.4
4. 授業の進行は適切だった	2	4	0	0	-	0	4.3	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	4	2	0	-	0	3.7	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	5	1	0	-	0	3.8	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	2	4	0	0	-	0	4.3	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	4	2	0	-	0	3.7	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	6	0	0	-	0	4.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	6	0	0	-	0	4.0	4.3



自由記載に関するコメント

机上の学修にとどまらず、妊娠期女性の身体の変化に合わせたメニューを調べ、調理実践まで行ったことを評価する記載があった。
院生個々が、調理実践の過程で、食材や調理方法のアレンジなど新たな気づきや工夫を考えていた。
助産ケアのひとつである食事指導について学修を深められたと考える。

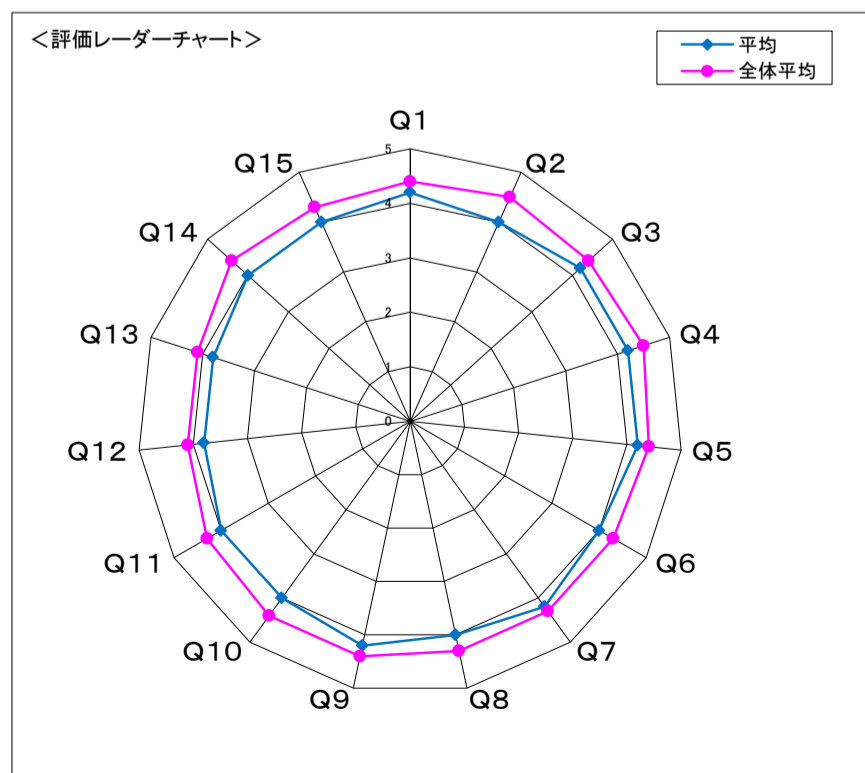
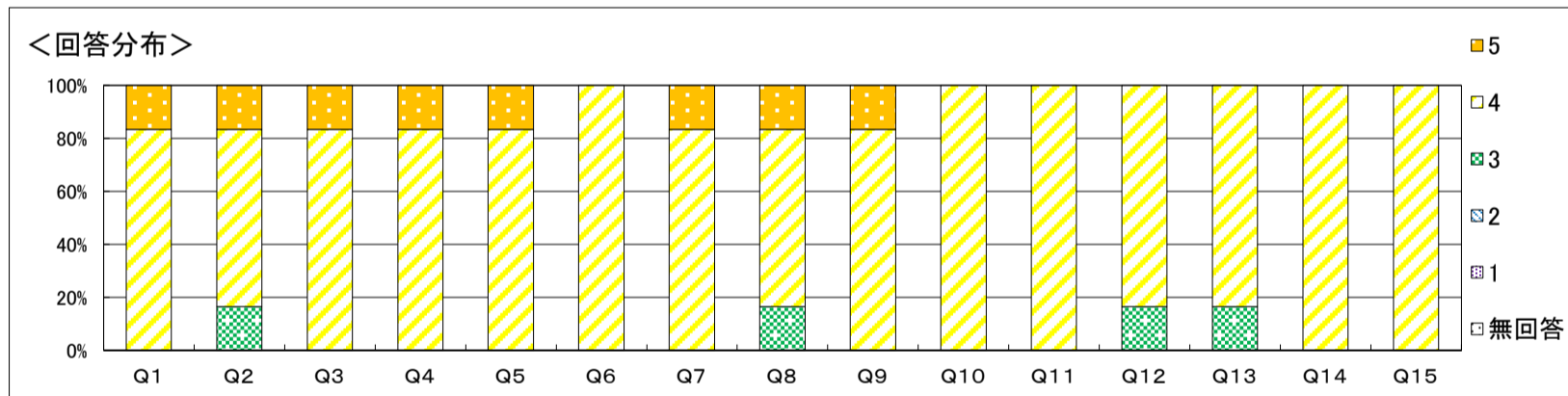
結果全体に対するコメント

回収率が25%であり、全体評価は困難である。
回答した6人の授業評価では、た項目より評価が低かった項目の「視聴覚教材の工夫」「授業前後の学修支援」について検討改善していきたい。

科目名	(500007) 4000072F11200500 助産女性学		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	基礎1年	回収数	6人
必修・選択の別	必修	回収率	25.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	4	1	0	-	0	4.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
4. 授業の進行は適切だった	1	5	0	0	-	0	4.2	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	6	0	0	-	0	4.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	5	0	0	-	0	4.2	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	4	1	0	-	0	4.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	1	5	0	0	-	0	4.2	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	6	0	0	-	0	4.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	6	0	0	-	0	4.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	5	1	0	-	0	3.8	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	6	0	0	-	0	4.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	6	0	0	-	0	4.0	4.3



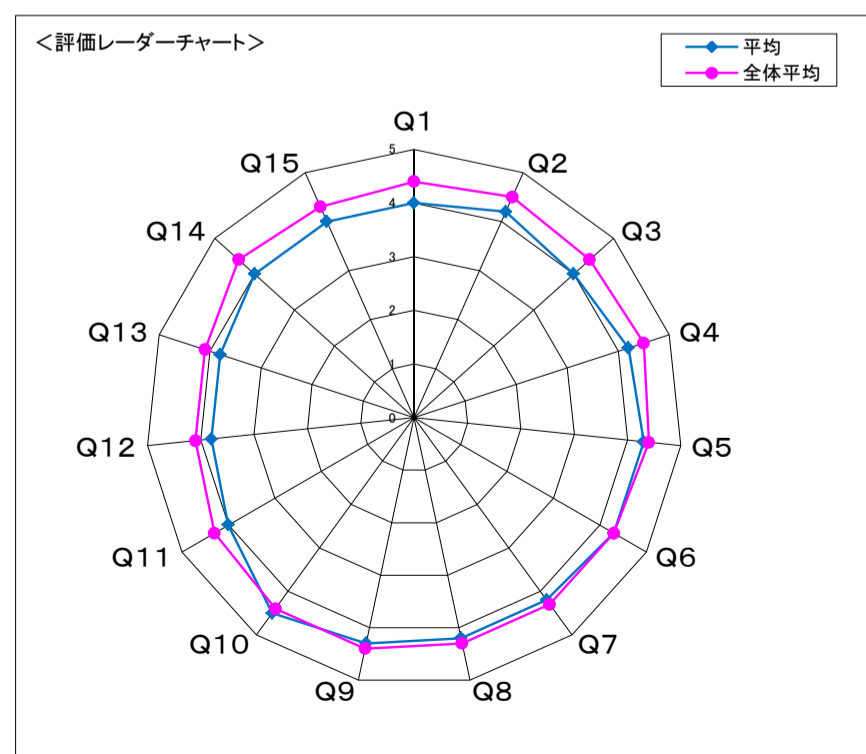
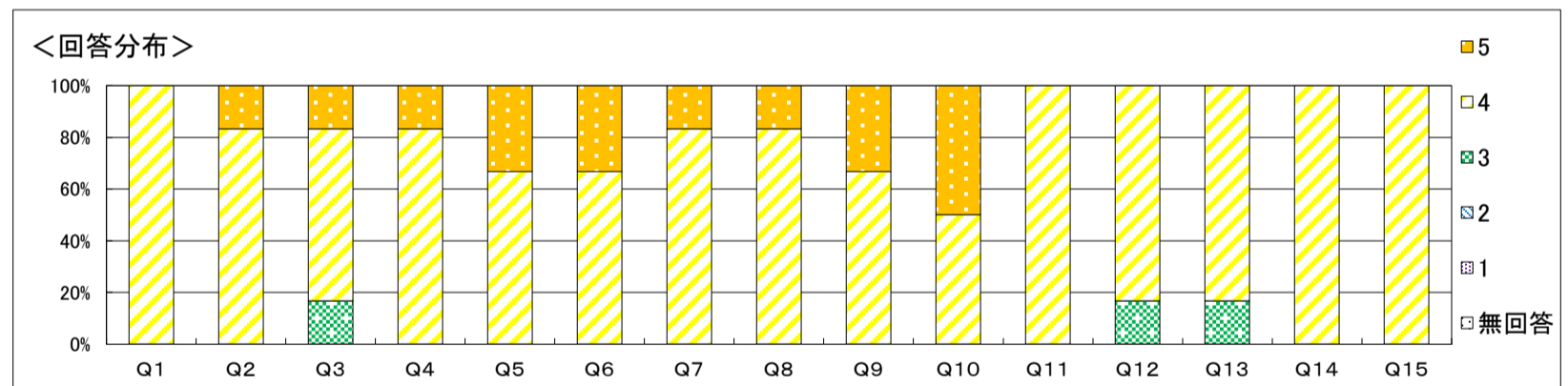
自由記載に関するコメント
 「民俗文化の視点から女性を捉えるという、貴重な体験ができました。」とのコメントであった。

結果全体に対するコメント
 6名(25%)によるものであるが、概ね授業内容・方法は適切で、目標を達成できたととらえる。

科目名	(500008) 4000082F11200700 健康教育論 I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	基礎1年	回収数	6人
必修・選択の別	必修	回収率	25.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	6	0	0	-	0	4.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	5	0	0	-	0	4.2	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	1	4	1	0	-	0	4.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	1	5	0	0	-	0	4.2	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	4	0	0	-	0	4.3	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	2	4	0	0	-	0	4.3	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	5	0	0	-	0	4.2	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	5	0	0	-	0	4.2	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	4	0	0	-	0	4.3	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	3	3	0	0	-	0	4.5	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	6	0	0	-	0	4.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	5	1	0	-	0	3.8	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	5	1	0	-	0	3.8	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	6	0	0	-	0	4.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	6	0	0	-	0	4.0	4.3



自由記載に関するコメント

目標に対し、コマ数が多いとのことであったが、健康教育者として、他者の健康に関与することの難しさが根底にある。実習での保健指導で行動変容の難しさを体験していることと、関連づけるなどもっと視野を広げて考えていただきたい。

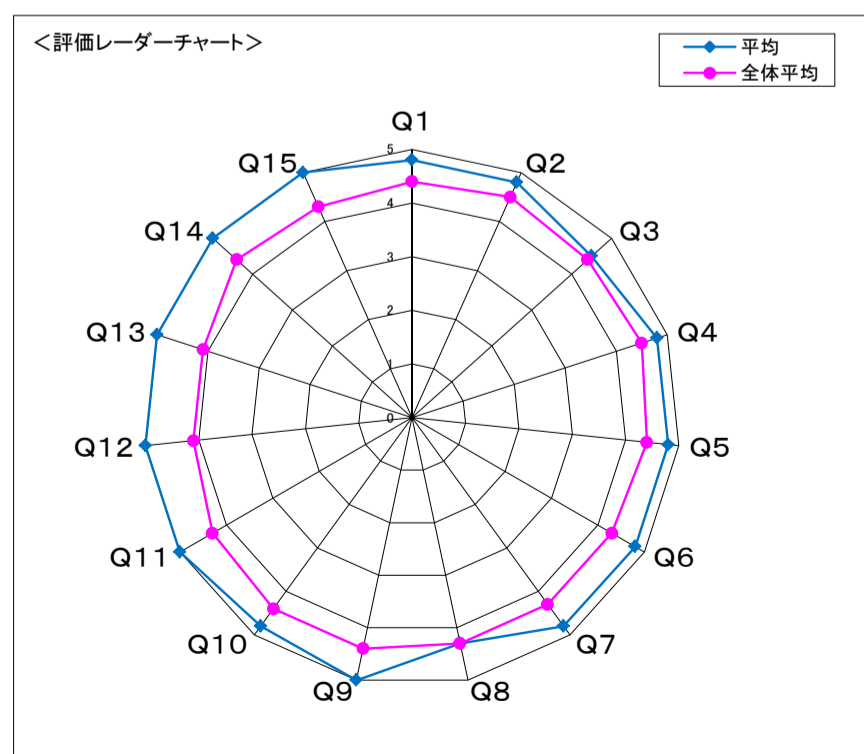
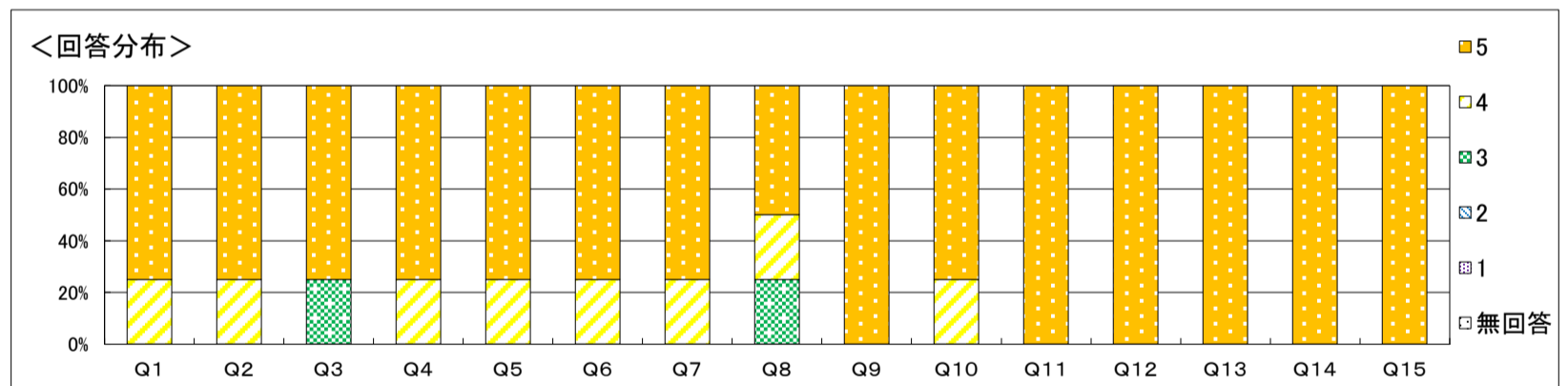
結果全体に対するコメント

アンケート提出者が少ないので、コメントできない。

科目名	(500009) 4000092F11200800 健康教育論Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	4人
必修・選択の別	必修	回収率	28.6%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	1	0	0	-	0	4.8	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	3	1	0	0	-	0	4.8	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	3	0	1	0	-	0	4.5	4.4
4. 授業の進行は適切だった	3	1	0	0	-	0	4.8	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	3	1	0	0	-	0	4.8	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	3	1	0	0	-	0	4.8	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	3	1	0	0	-	0	4.8	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	2	1	1	0	-	0	4.3	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	4	0	0	0	-	0	5.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	3	1	0	0	-	0	4.8	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	4	0	0	0	-	0	5.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	4	0	0	0	-	0	5.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	4	0	0	0	-	0	5.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	4	0	0	0	-	0	5.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	4	0	0	0	-	0	5.0	4.3



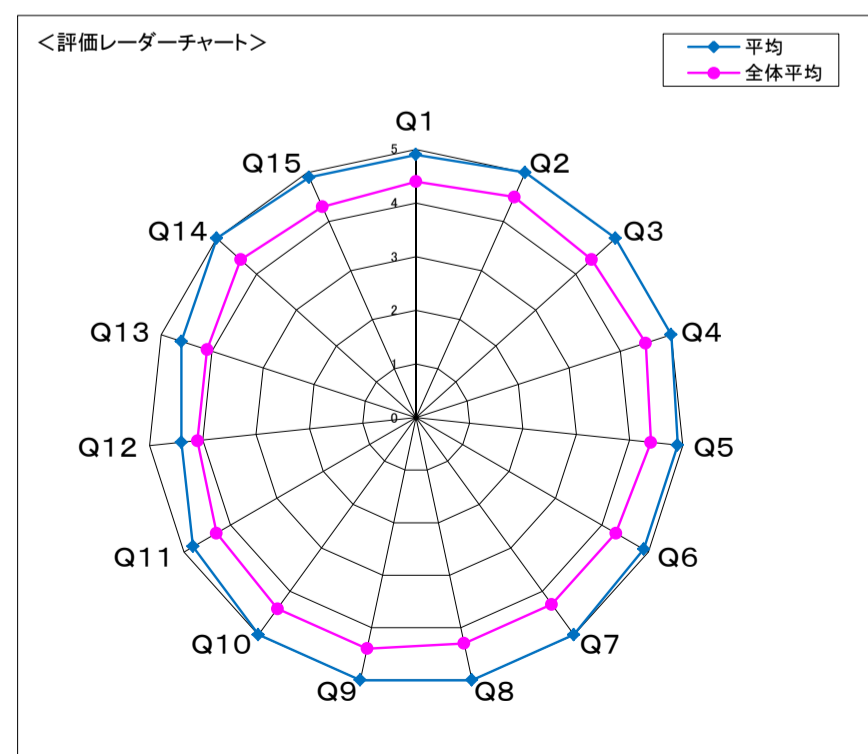
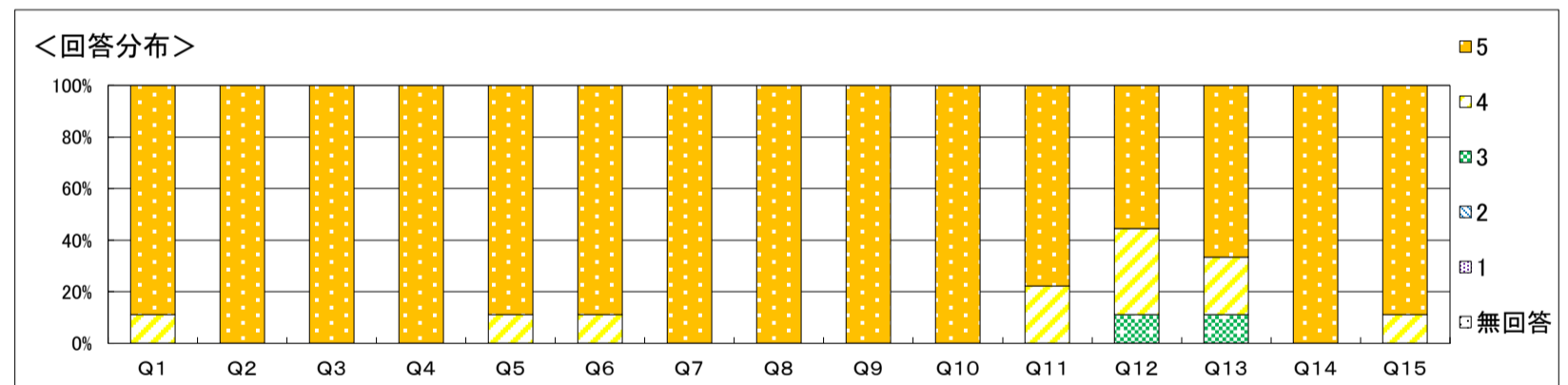
自由記載に関するコメント
 動画制作などの経験は、社会人になってから必ず生かされることだと考えます。次年度は、社会情勢を考慮どのような形にするか、決めていきたい。

結果全体に対するコメント
 アンケート参加者が少ないので、コメントできない。

科目名	(500010) 4000102F11300200 助産管理論Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	9人
必修・選択の別	必修	回収率	64.3%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	8	1	0	0	-	0	4.9	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	9	0	0	0	-	0	5.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	9	0	0	0	-	0	5.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	9	0	0	0	-	0	5.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	8	1	0	0	-	0	4.9	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	8	1	0	0	-	0	4.9	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	9	0	0	0	-	0	5.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	9	0	0	0	-	0	5.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	9	0	0	0	-	0	5.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	9	0	0	0	-	0	5.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	7	2	0	0	-	0	4.8	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	5	3	1	0	-	0	4.4	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	6	2	1	0	-	0	4.6	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	9	0	0	0	-	0	5.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	8	1	0	0	-	0	4.9	4.3



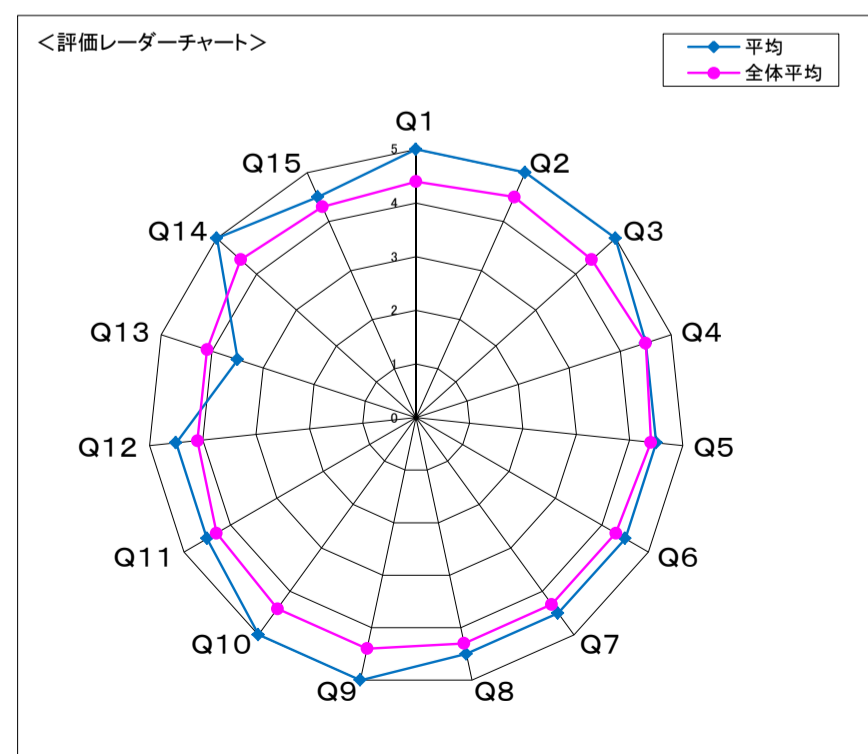
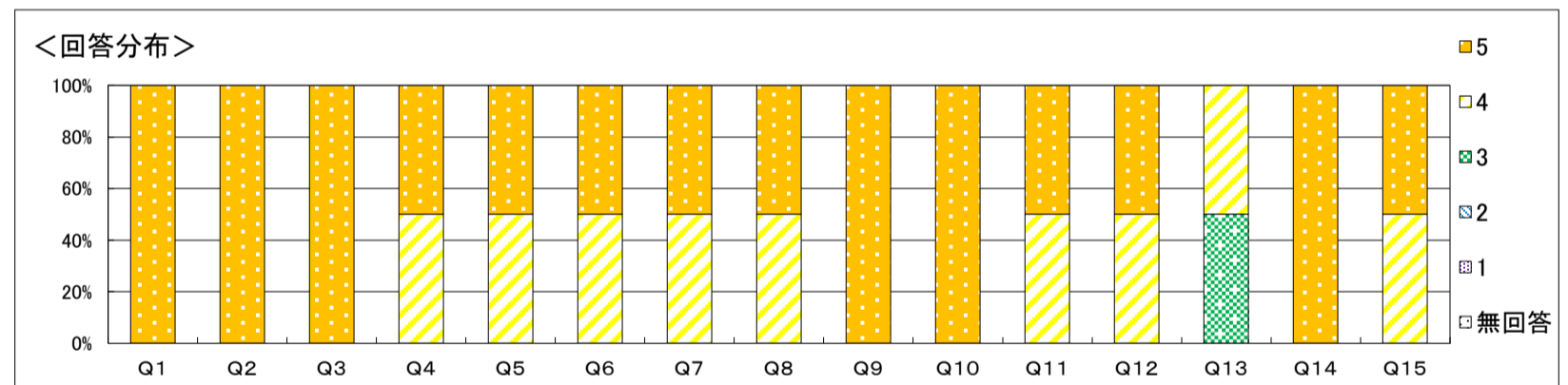
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

科目名	(500011) 4000112F11300300 助産師教育論		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	2人
必修・選択の別	必修	回収率	14.3%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	2	0	0	0	-	0	5.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	1	0	0	-	0	4.5	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	1	0	0	-	0	4.5	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	1	1	0	0	-	0	4.5	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	1	0	-	0	3.5	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	1	0	0	-	0	4.5	4.3



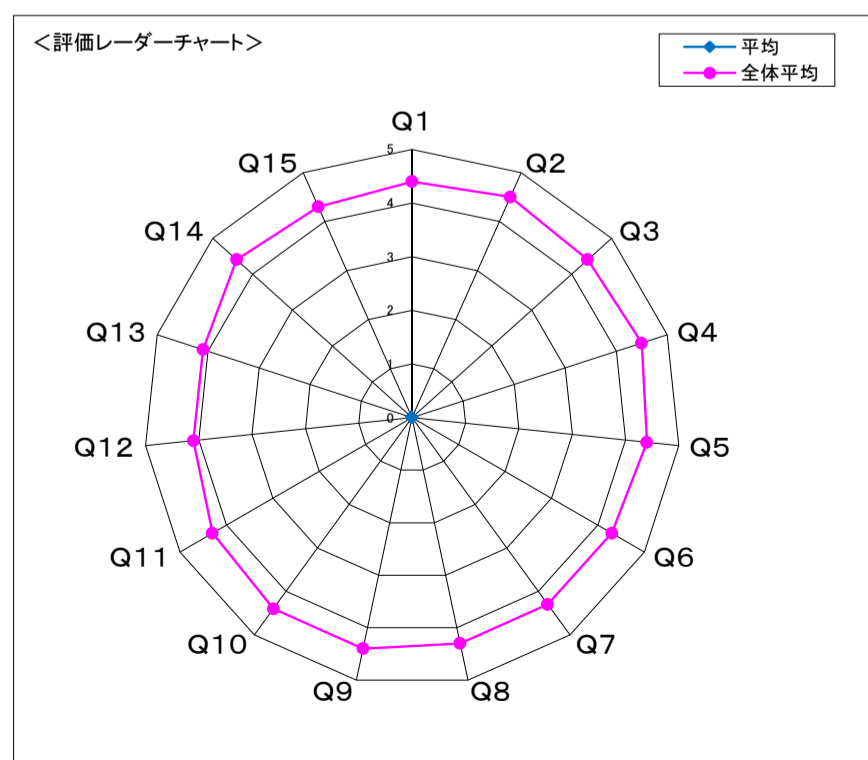
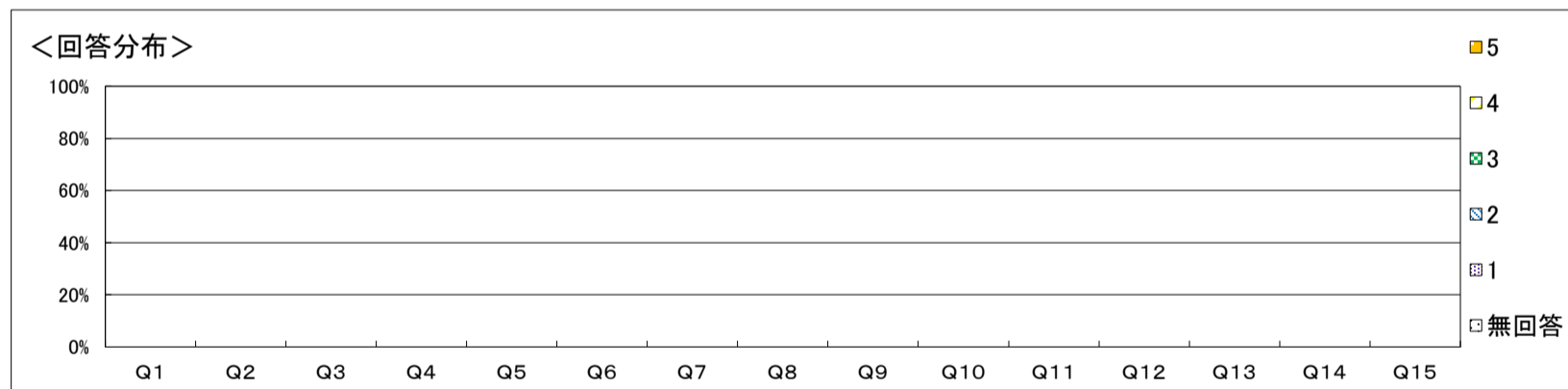
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 グループワークや授業の課題にクラス全体で積極的に取り組んでいたと思います。

科目名	(500012) 4000122F11300600 母子保健活動論(疫学・統計を含む)		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	0人
必修・選択の別	必修	回収率	0.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3



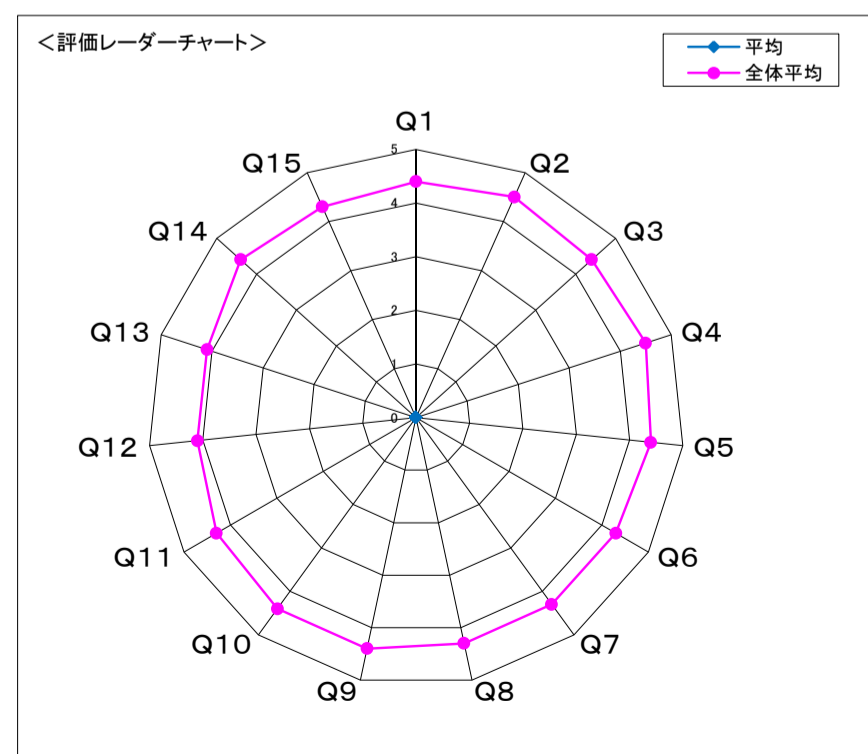
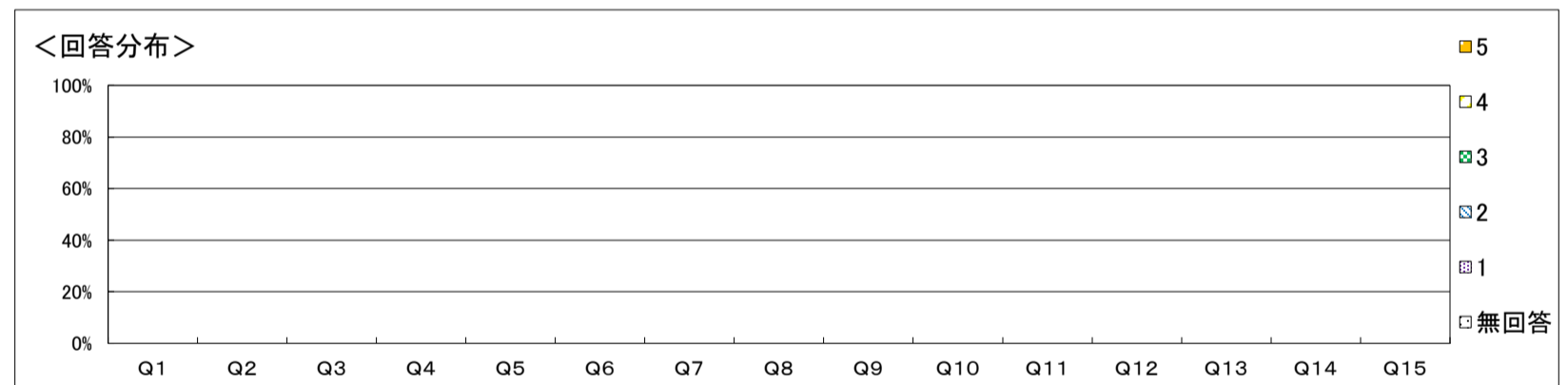
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
アンケートの回収率を上げていきたい。

科目名	(500013) 4000132F12100600 ハイリスク助産演習		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	0人
必修・選択の別	必修	回収率	0.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3



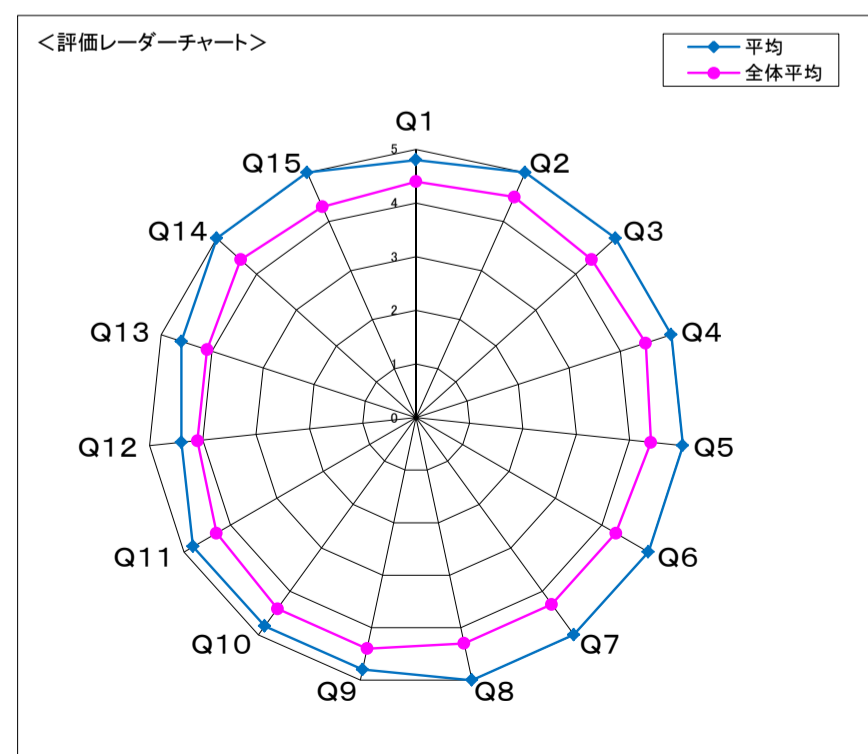
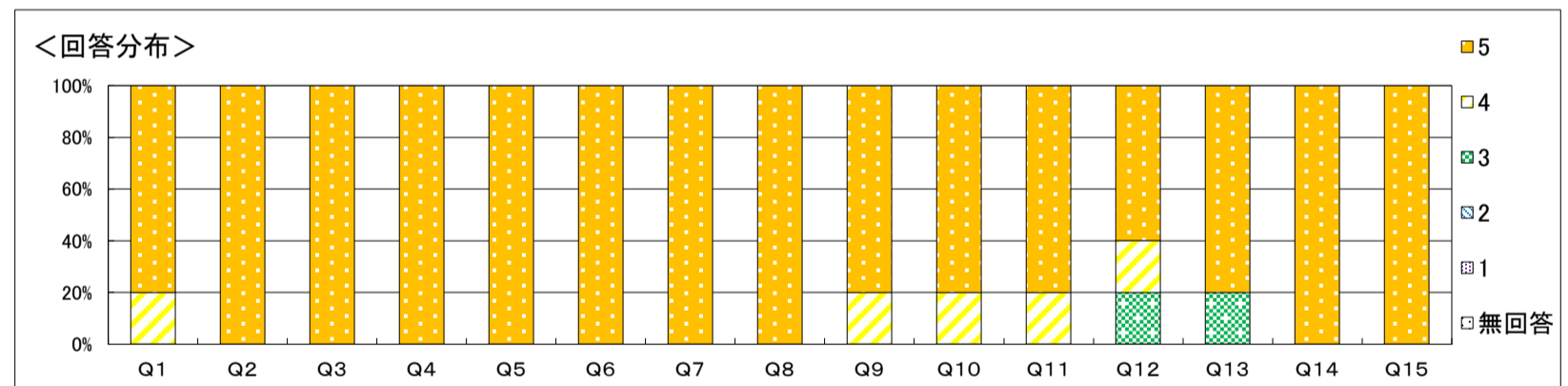
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
アンケート提出者がいないので、コメントできない。

科目名	(500014) 4000142F12100700 独立助産実践概論		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	5人
必修・選択の別	必修	回収率	35.7%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	4	1	0	0	-	0	4.8	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	5	0	0	0	-	0	5.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	5	0	0	0	-	0	5.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	5	0	0	0	-	0	5.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	5	0	0	0	-	0	5.0	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	5	0	0	0	-	0	5.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	5	0	0	0	-	0	5.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	5	0	0	0	-	0	5.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	4	1	0	0	-	0	4.8	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	4	1	0	0	-	0	4.8	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	4	1	0	0	-	0	4.8	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	3	1	1	0	-	0	4.4	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	4	0	1	0	-	0	4.6	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	5	0	0	0	-	0	5.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	5	0	0	0	-	0	5.0	4.3



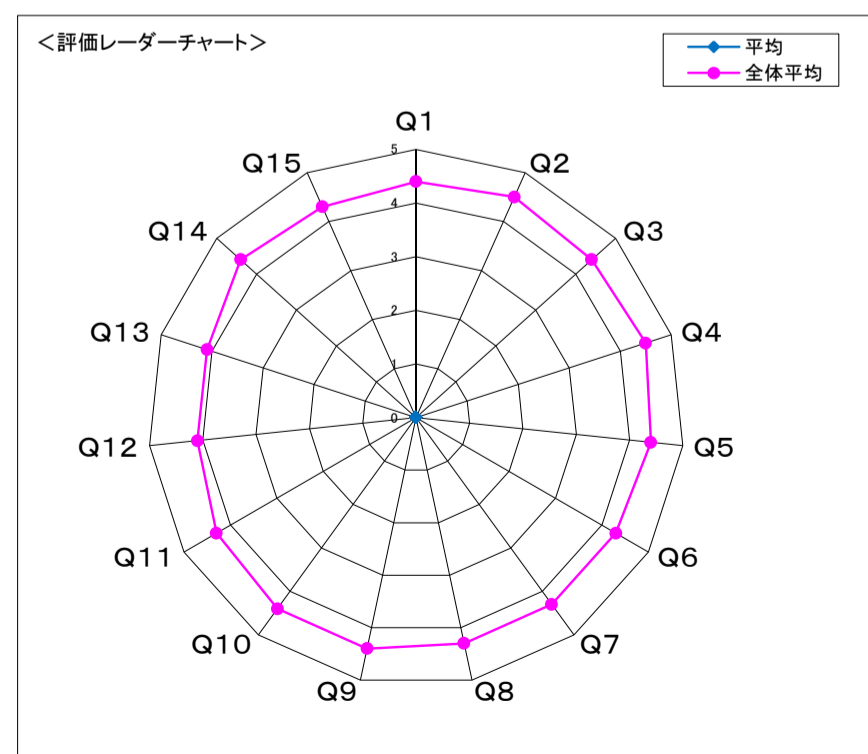
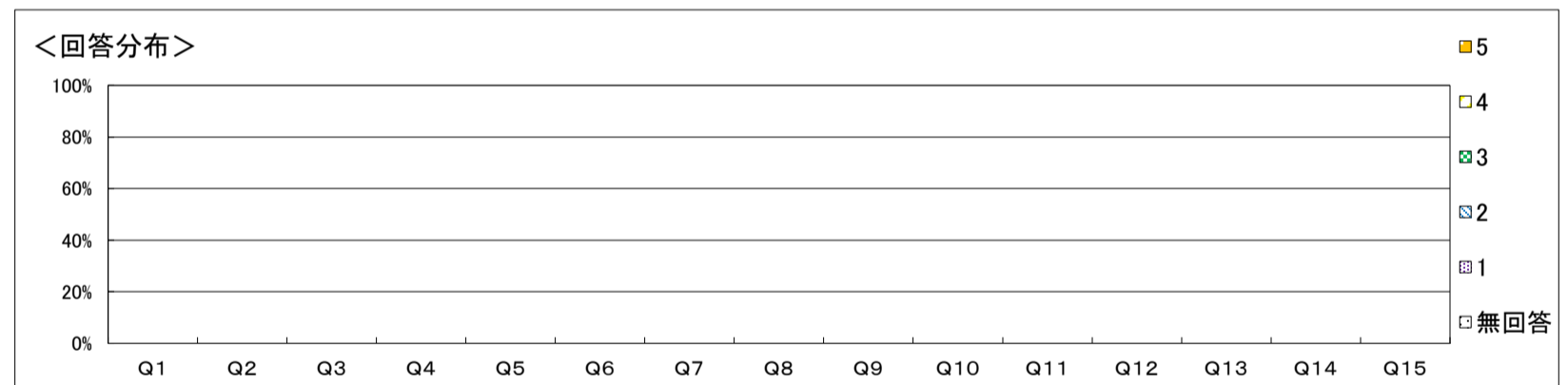
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

科目名	(500015) 4000152F12100800 独立助産演習		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	0人
必修・選択の別	必修	回収率	0.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3



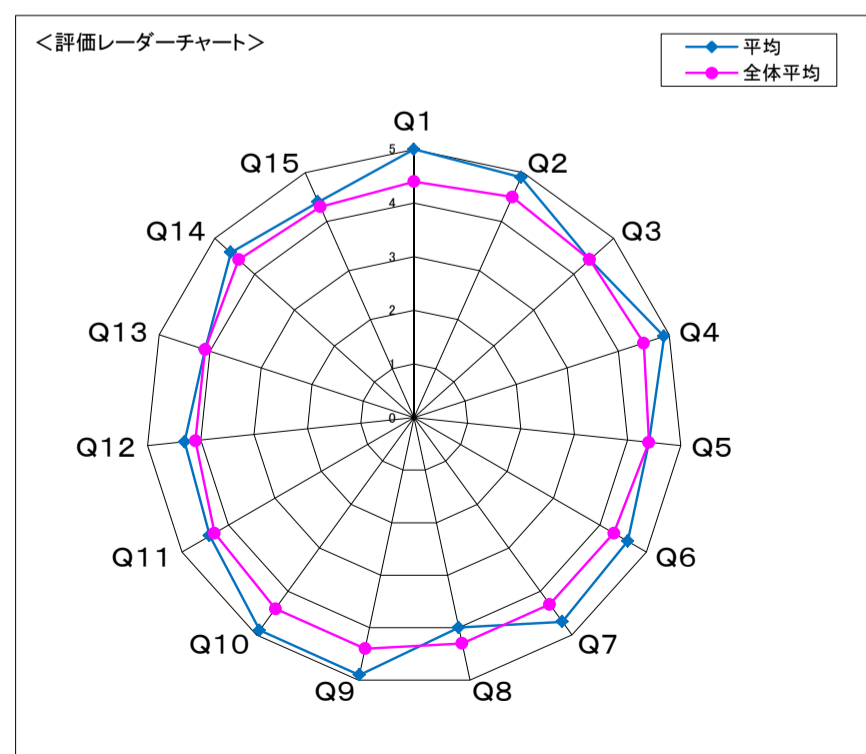
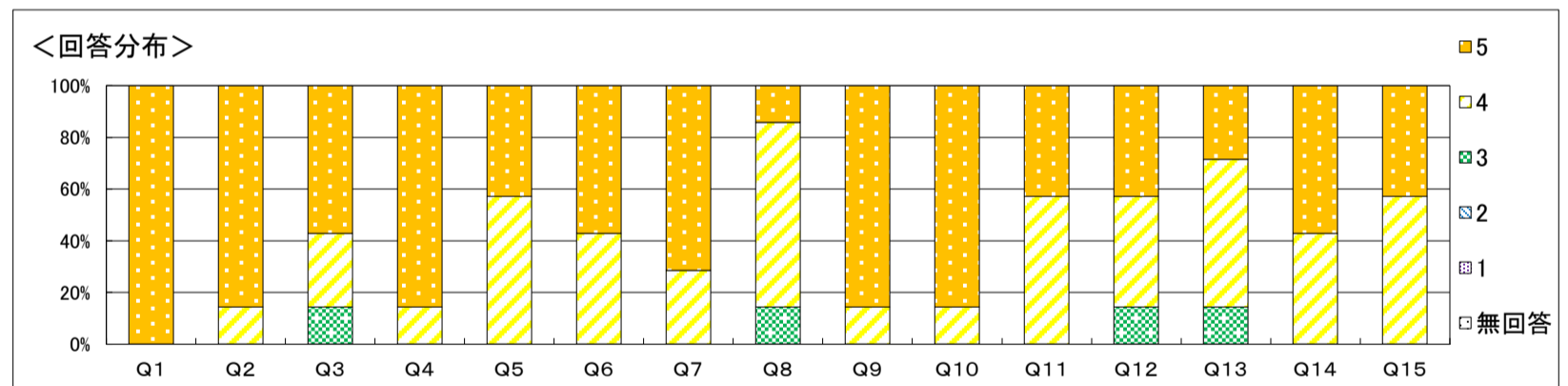
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

科目名	(500016) 4000162F13100400 性教育 I		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	7人
必修・選択の別	必修	回収率	50.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	7	0	0	0	-	0	5.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	6	1	0	0	-	0	4.9	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	4	2	1	0	-	0	4.4	4.4
4. 授業の進行は適切だった	6	1	0	0	-	0	4.9	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	3	4	0	0	-	0	4.4	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	4	3	0	0	-	0	4.6	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	5	2	0	0	-	0	4.7	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	5	1	0	-	0	4.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	6	1	0	0	-	0	4.9	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	6	1	0	0	-	0	4.9	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	3	4	0	0	-	0	4.4	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	3	3	1	0	-	0	4.3	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	2	4	1	0	-	0	4.1	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	4	3	0	0	-	0	4.6	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	3	4	0	0	-	0	4.4	4.3



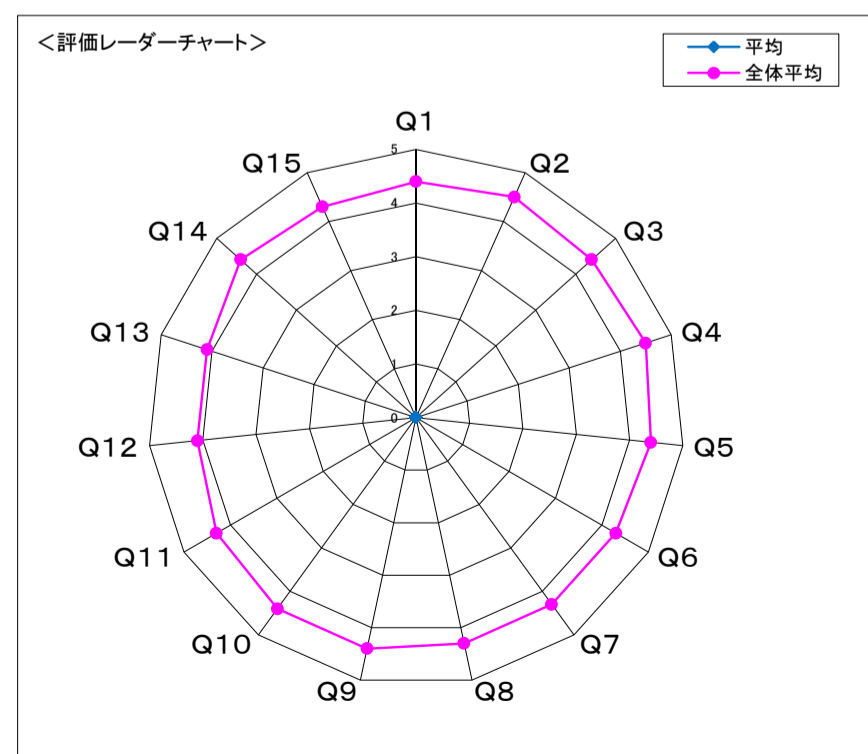
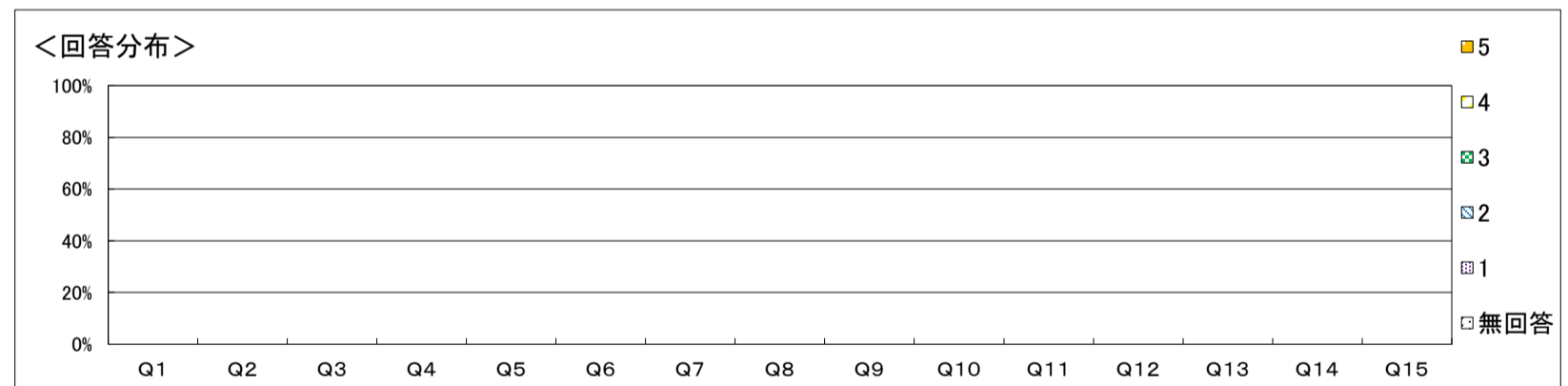
自由記載に関するコメント
 性教育について、興味深く学んでいるという意見があり、積極的な学習に繋がったと考えます。性教育模擬授業のグループ発表ならびにディスカッションは、双方向での学びに繋がり高評価を得られたと考えます。今後は、課題の分量や時期を検討し、学習環境にも配慮していきたいと思ひます。

結果全体に対するコメント
 全体的に、積極的・主体的に授業に取り組む姿勢がみられていた。他の科目の進捗や課題の重なりにより留意しながら、学習に取り組むことができるようにしていきたいと思ひます。

科目名	(500017) 4000172F13101000 国際助産学 I		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	基礎2年	回収数	0人
必修・選択の別	必修	回収率	0.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
3. 授業の時間数は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.5
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3



自由記載に関するコメント

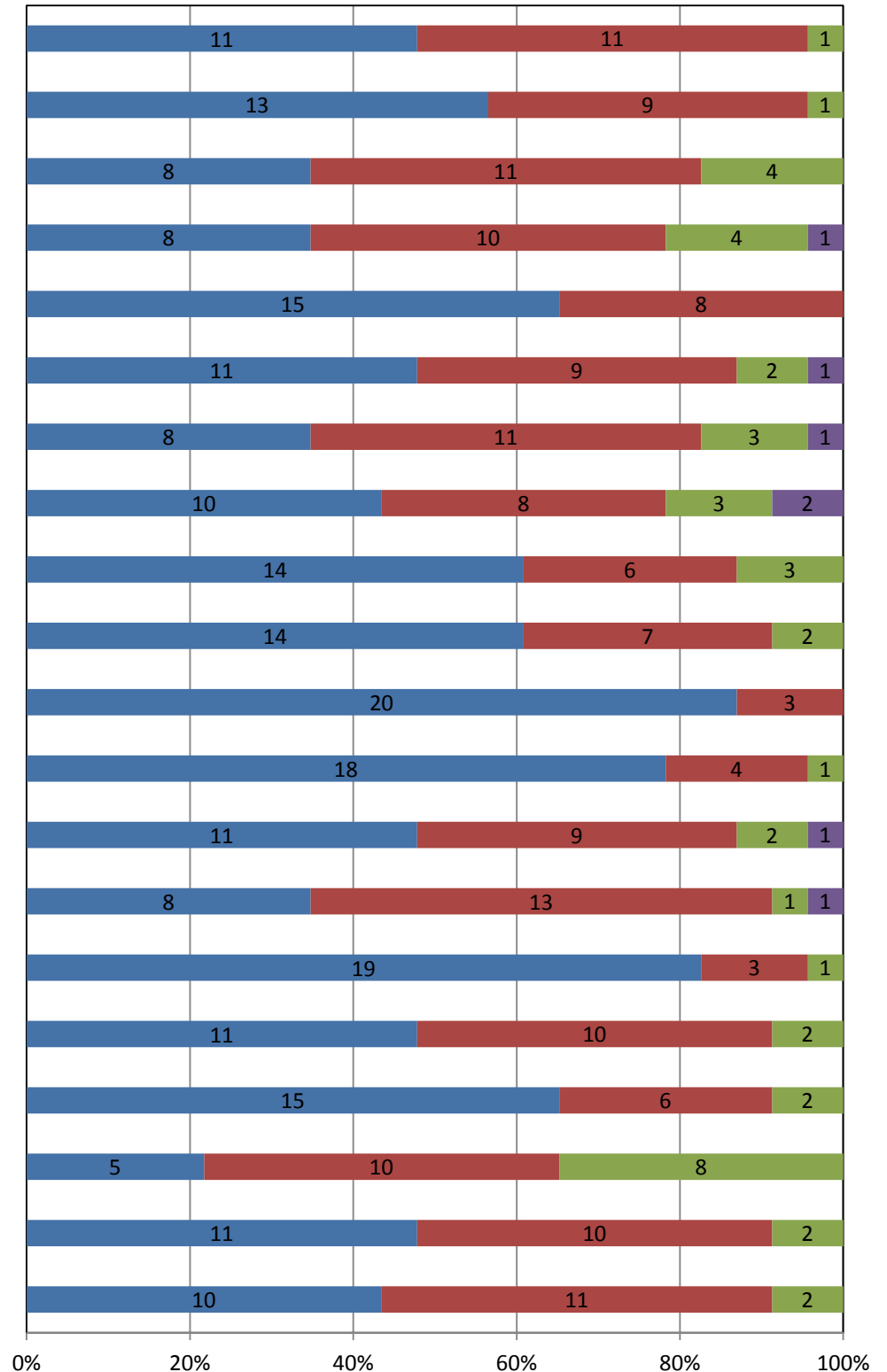
結果全体に対するコメント
 アンケートに回答がなかったので、今後は回答を促したいと思いました。

科目名	マタニティサイクル助産ケア基礎実習 I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1年	回収数	23人
必修・選択の別	必修	回収率	95.8%

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

項目別回答分布

1. 実習目標は明確に示されていた
2. 実習目標は理解できた
3. 実習方法は、目標を達成するように組み立てられていた
4. 実習前のオリエンテーションは実習に役立った
5. 実習施設の受け入れ体制は、実習目標を達成するのに適切だった
6. 実習目標を達成するための実習期間は適切だった
7. 実習記録は、思考を深めるのに役立つものだった
8. 提出した記録類を通して適切な助言があった
9. 教員・実習指導教員は適切な実習調整を行った
10. 教員・実習指導教員から適切な助言を受けることができた
11. 臨床助産師から適時適切な指導・助言を受けることができた
12. 臨床助産師から助産師の役割を学ぶことができた
13. 教員、実習指導教員、臨床助産師の間で情報共有が行われていた
14. 自己学習や質問等により、実習に積極的に参加した
15. 同じ施設の実習メンバーと積極的な学び合いができた
16. 実習を通して理論と実践の統合が図られた
17. 実習を通して助産師への意欲が高まった
18. 実習目標は達成できた
19. 実習を終えて今後の自己課題が明確になった
20. 総合的に判断して、この実習に満足している



自由記載に対するコメント
 「実習施設によりバラバラなので統一して欲しい。」
 「助産過程・アセスメントの方法がしっかり分かった上で実習に臨みたかった。」
 実習施設により違いがあり、全く同じ実習とはならないため、受け止めにかなり差があると感じる。入学から短期間での実習となるため、実習で戸惑わないように、事前学習が十分できるように考えたい。

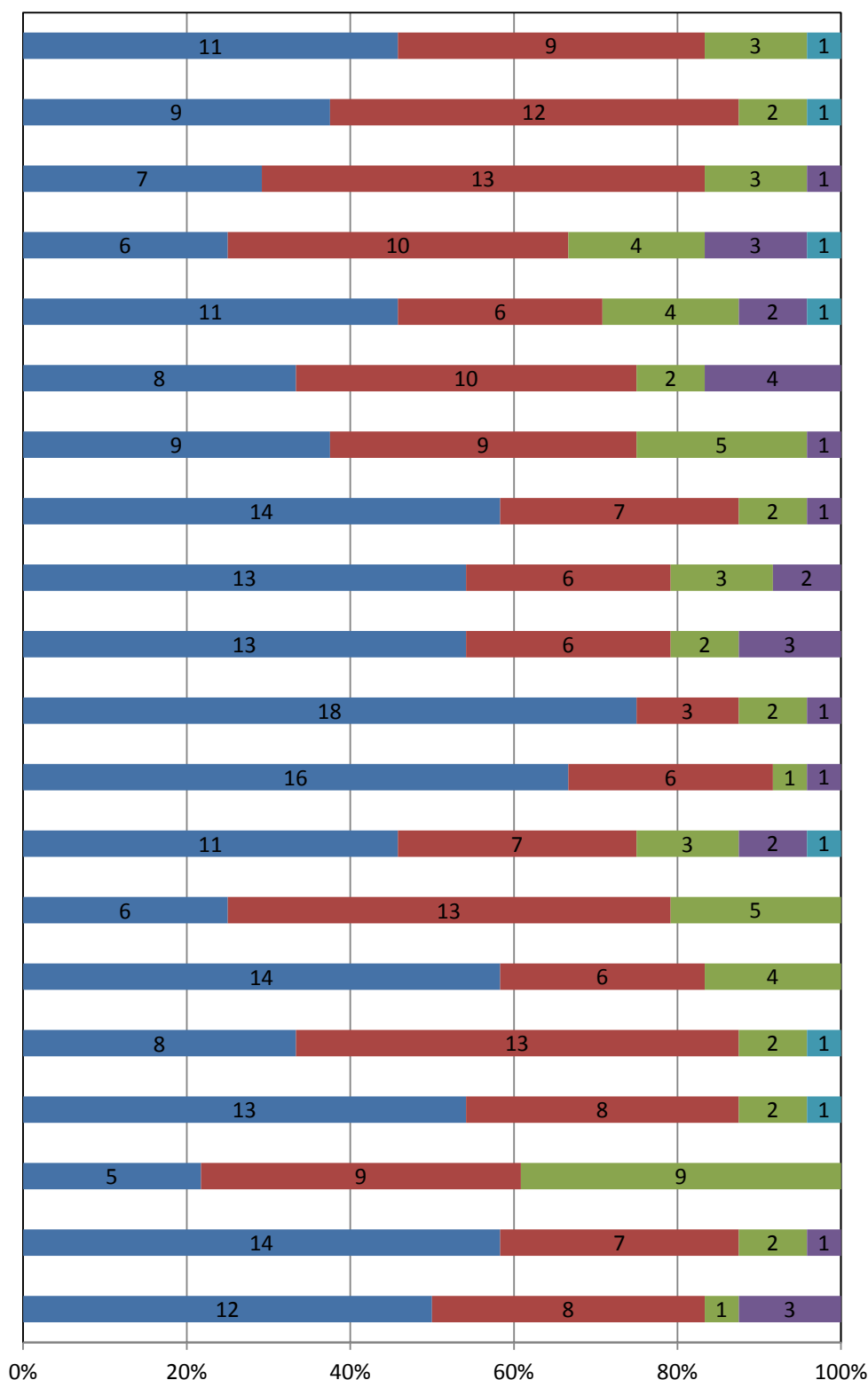
結果全体に対するコメント
 例年とあまり変わらない結果で、「そう思う」がほとんどであるが、オリエンテーションを含め実習方法・記録について検討が必要と受け止める。事前学習・オリエンテーションの充実を図りたい。目標の達成感がいまひとつであるが、実習を通して「理論と実践の統合が図れた」「課題が明確になった」「助産師への意欲が高まった」「満足している」としているので、基礎実習として目的を果たしていると言える。

科目名	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1年	回収数	24人
必修・選択の別	必修	回収率	100.0%

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

項目別回答分布

1. 実習目標は明確に示されていた
2. 実習目標は理解できた
3. 実習方法は、目標を達成するように組み立てられていた
4. 実習前のオリエンテーションは実習に役立った
5. 実習施設の受け入れ体制は、実習目標を達成するのに適切だった
6. 実習目標を達成するための実習期間は適切だった
7. 実習記録は、思考を深めるのに役立つものだった
8. 提出した記録類を通して適切な助言があった
9. 教員・実習指導教員は適切な実習調整を行った
10. 教員・実習指導教員から適切な助言を受けることができた
11. 臨床助産師から適時適切な指導・助言を受けることができた
12. 臨床助産師から助産師の役割を学ぶことができた
13. 教員、実習指導教員、臨床助産師の間で情報共有が行われていた
14. 自己学習や質問等により、実習に積極的に参加した
15. 同じ施設の実習メンバーと積極的な学び合いができた
16. 実習を通して理論と実践の統合が図られた
17. 実習を通して助産師への意欲が高まった
18. 実習目標は達成できた
19. 実習を終えて今後の自己課題が明確になった
20. 総合的に判断して、この実習に満足している



自由記載に対するコメント
 分娩介助実習であるため、施設により実習の大変さに対する意見、また、事前の記録物の書き方・技術演習に充実に対する意見があった。事前学習を充実するとともに、大変な生活経験がない若者に、充実した実践経験となる実習体制を考えていきたい。

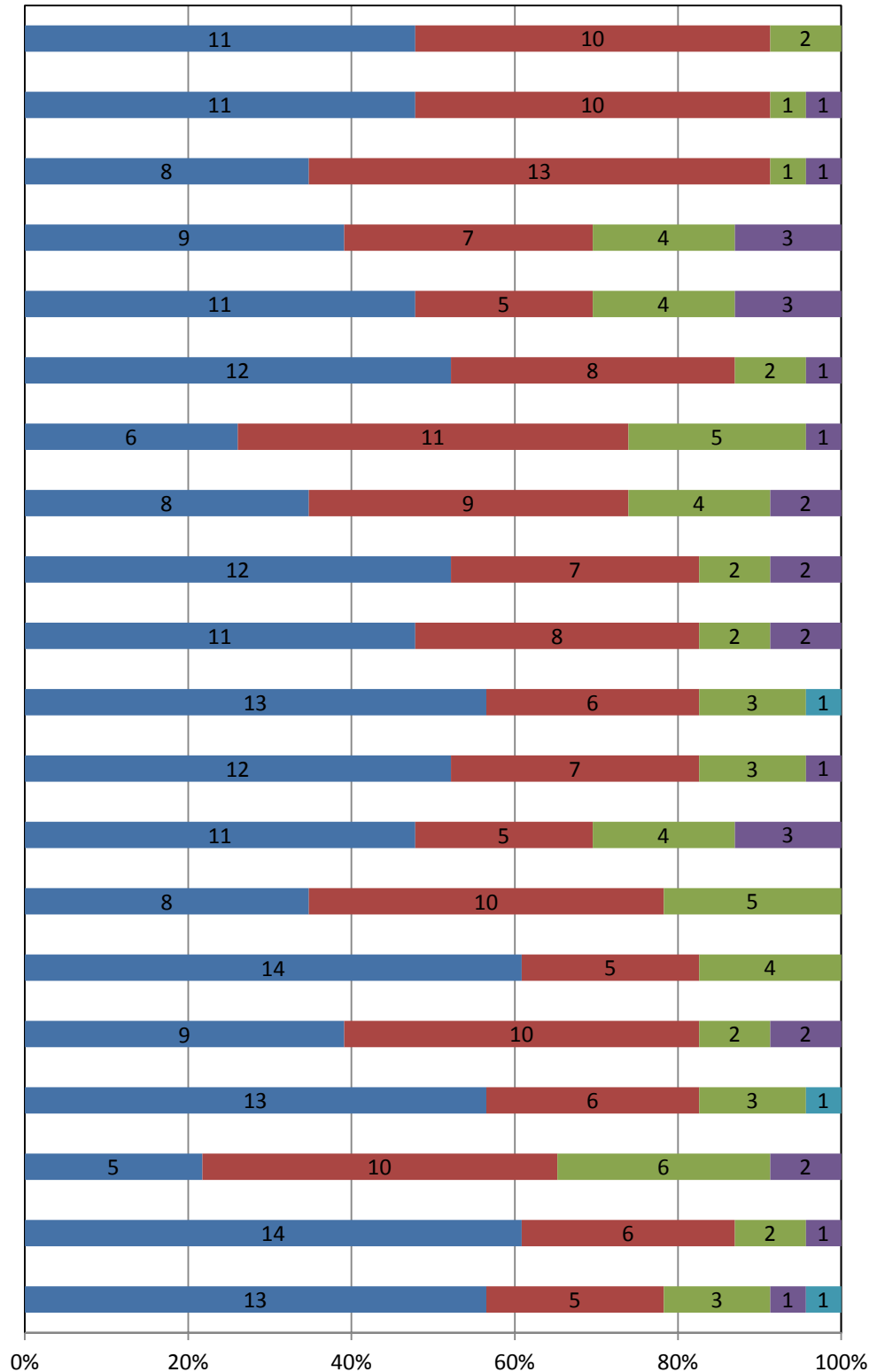
結果全体に対するコメント
 目標の達成については、分娩介助が1例しかできなかったものから、4例できた者とはばらつきがあるためと思われる。オリエンテーションを含め実習方法・記録について検討が必要と受け止める。事前学習・オリエンテーションの充実を図りたい。実習を通して「理論と実践の統合が図れた」「課題が明確になった」「助産師への意欲が高まった」「満足している」としているため、基礎実習として目的を果たしていると言える。

科目名	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1年	回収数	23人
必修・選択の別	必修	回収率	95.8%

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

項目別回答分布

1. 実習目標は明確に示されていた
2. 実習目標は理解できた
3. 実習方法は、目標を達成するように組み立てられていた
4. 実習前のオリエンテーションは実習に役立った
5. 実習施設の受け入れ体制は、実習目標を達成するのに適切だった
6. 実習目標を達成するための実習期間は適切だった
7. 実習記録は、思考を深めるのに役立つものだった
8. 提出した記録類を通して適切な助言があった
9. 教員・実習指導教員は適切な実習調整を行った
10. 教員・実習指導教員から適切な助言を受けることができた
11. 臨床助産師から適時適切な指導・助言を受けることができた
12. 臨床助産師から助産師の役割を学ぶことができた
13. 教員、実習指導教員、臨床助産師の間で情報共有が行われていた
14. 自己学習や質問等により、実習に積極的に参加した
15. 同じ施設の実習メンバーと積極的な学び合いができた
16. 実習を通して理論と実践の統合が図られた
17. 実習を通して助産師への意欲が高まった
18. 実習目標は達成できた
19. 実習を終えて今後の自己課題が明確になった
20. 総合的に判断して、この実習に満足している



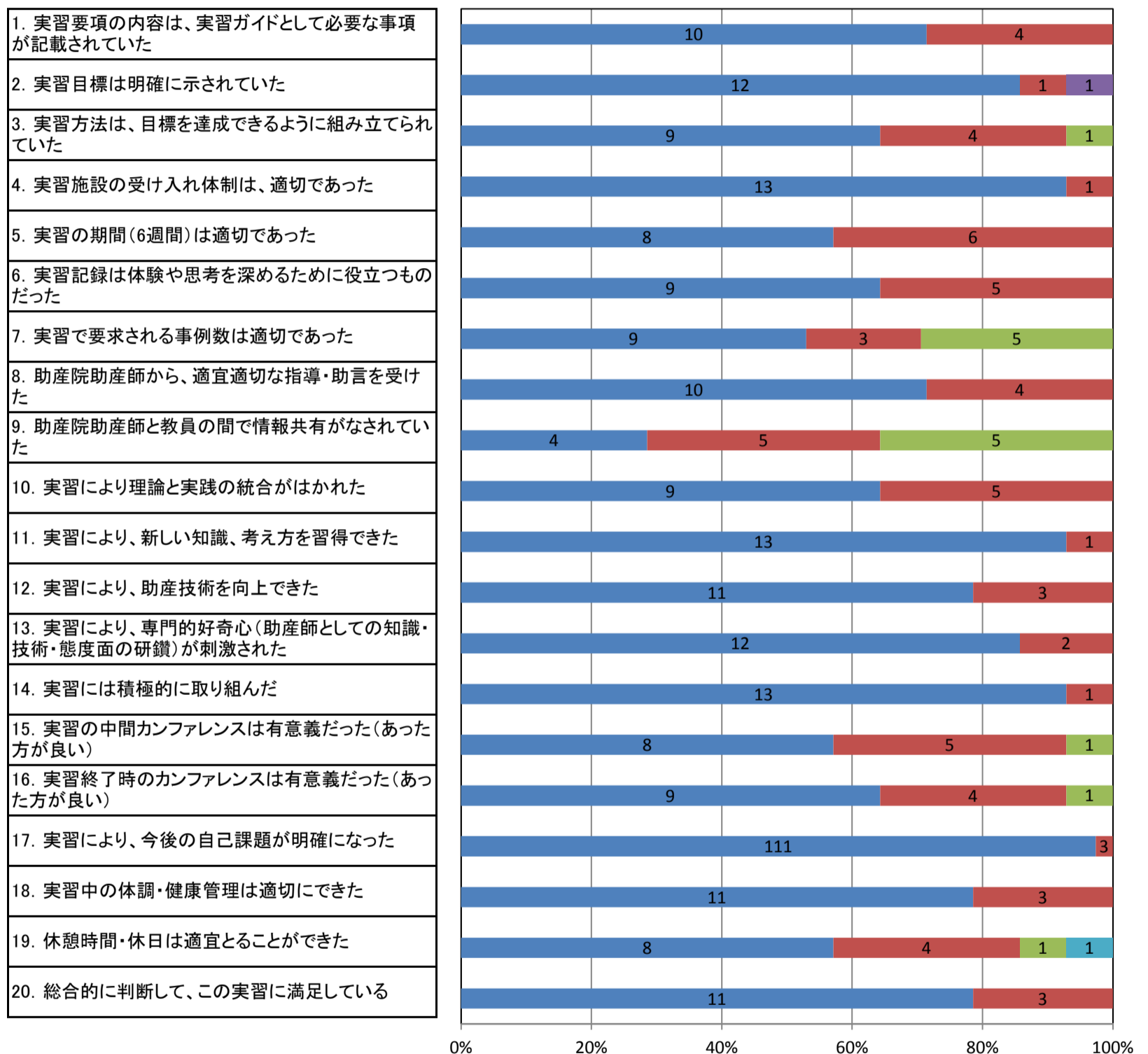
自由記載に対するコメント
 実習施設による記録や提出の違いに対する意見があったが、実習状況などを考慮した違いなどがあることが理解できるように、事前に説明をする必要がある。

結果全体に対するコメント
 昨年度はあまりなかった「どちらともいえない」「そう思わない」がある。院生数が昨年の1.5倍となったことなど体制の検討、オリエンテーションを含め実習方法・記録について検討が必要と受け止める。事前学習・オリエンテーションの充実を図りたい。目標の達成感がいまひとつであるが、実習を通して「理論と実践の統合が図れた」「課題が明確になった」「助産師への意欲が高まった」「満足している」としているの、基礎実習として目的を果たしていると言える。

科目名	マタニティサイクル独立助産実習		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	2年	回収数	14人
必修・選択の別	必修	回収率	100.0%

項目別回答分布

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答



自由記載に対するコメント

・実習目標が高いのではないかという事に関して、実習時期が6~7週間で十分にある環境下で、助産師指導の下、安全に助産ケアが実施できるとい程度までの目標は必要かと思えます。

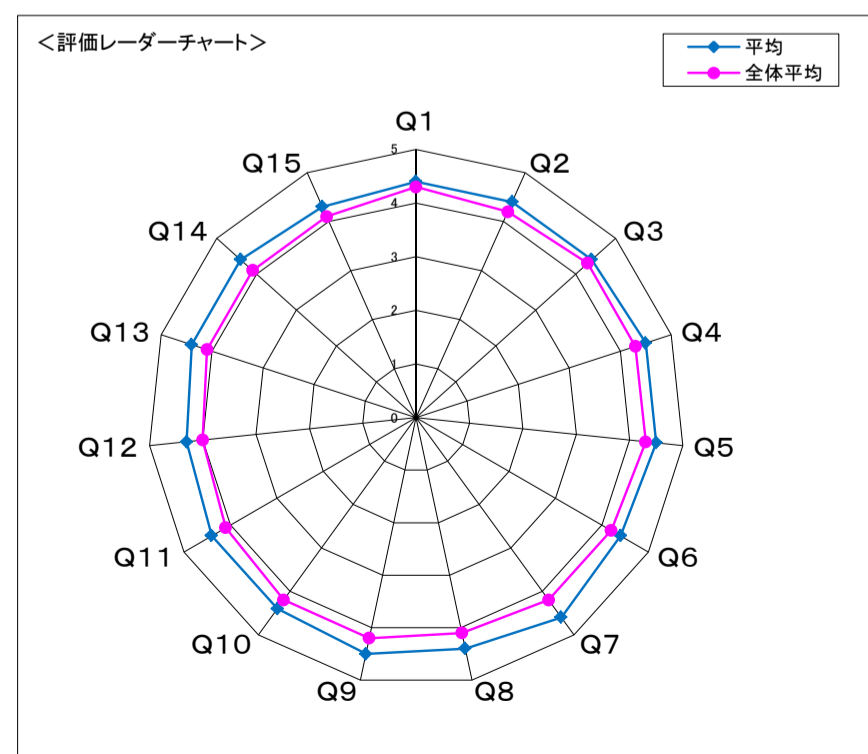
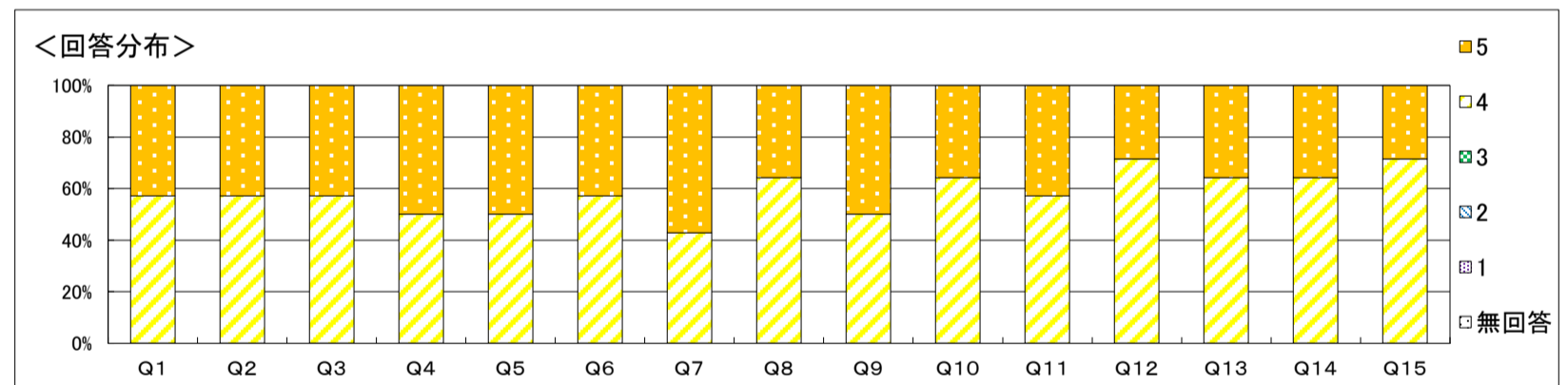
結果全体に対するコメント

・分娩介助経験10例を目指すことで、1人の学生が複数の助産院で実習することになり、また、急に学生自身が予定していない助産院で実習することになったりがあった。教員側では想定内で、オリエンテーションで学生に説明していたが、施設との調整や、分娩介助にとられざるを得ない状況に、苦労があったのだと推測する。分娩の補習実習を組むことの困難さが背景にあるため、今年度は統合実習Iでできる限りの分娩介助経験を積めることが必要になる。

科目名	(500018) 40000182F11100200 助産哲学・倫理 I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	14人
必修・選択の別	必修	回収率	58.3%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	6	8	0	0	-	0	4.4	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	6	8	0	0	-	0	4.4	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	6	8	0	0	-	0	4.4	4.3
4. 授業の進行は適切だった	7	7	0	0	-	0	4.5	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	7	7	0	0	-	0	4.5	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	6	8	0	0	-	0	4.4	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	8	6	0	0	-	0	4.6	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	5	9	0	0	-	0	4.4	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	7	7	0	0	-	0	4.5	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	5	9	0	0	-	0	4.4	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	6	8	0	0	-	0	4.4	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	4	10	0	0	-	0	4.3	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	5	9	0	0	-	0	4.4	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	5	9	0	0	-	0	4.4	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	4	10	0	0	-	0	4.3	4.1



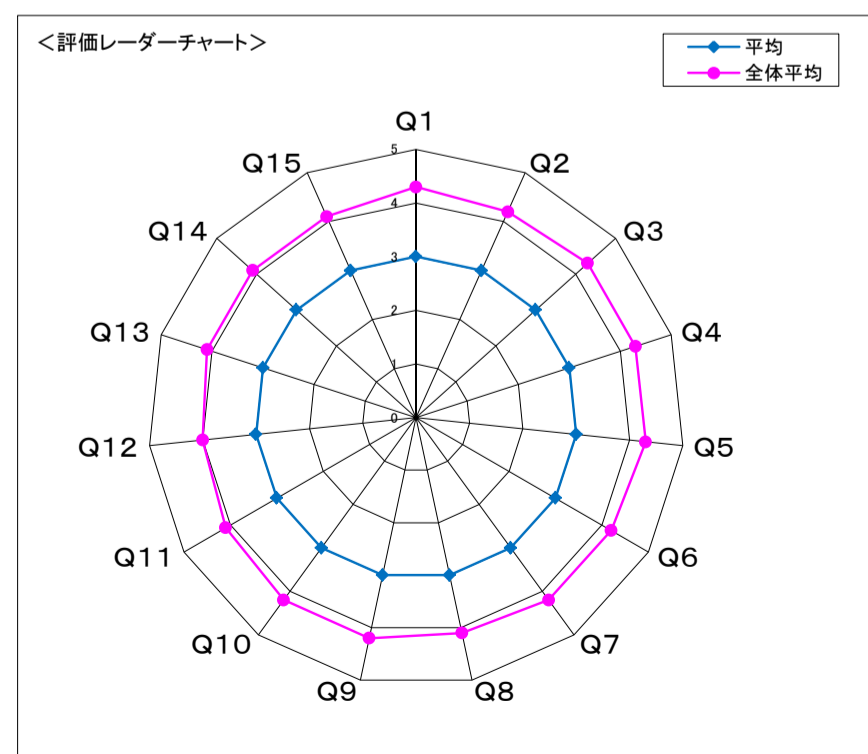
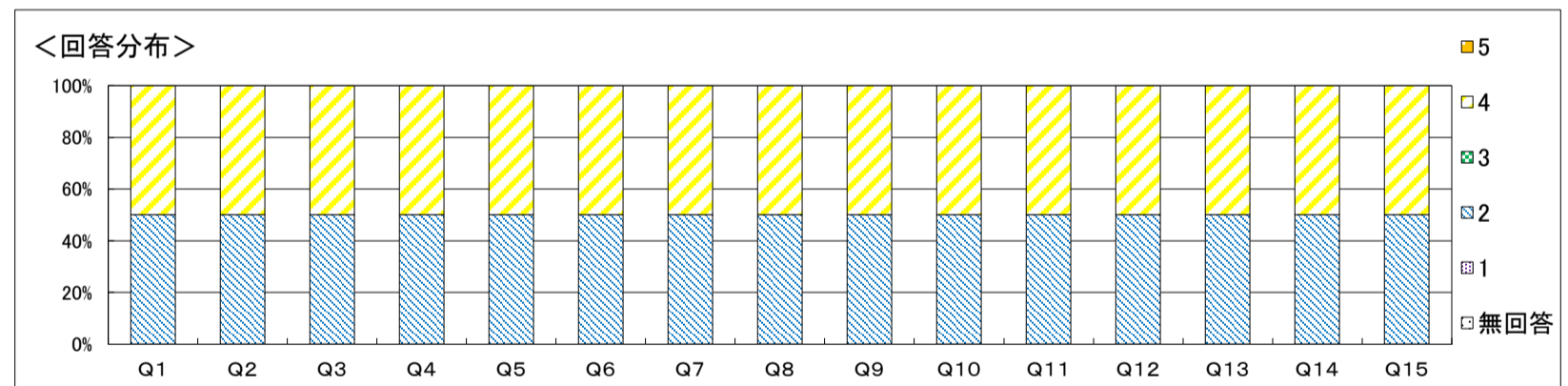
自由記載に関するコメント
なし

結果全体に対するコメント
全てが高評価で良かった。本学の特徴であるカトリックの倫理に関しても、聖書などからの学びができたと思う。院生も積極的に課題に取り組み、興味を持って学びを深められていたと思う。今後も興味を持って学べるようにしていく。

科目名	(500019) 40000192F11200600 助産カウンセリング		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	2人
必修・選択の別	必修	回収率	8.3%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1



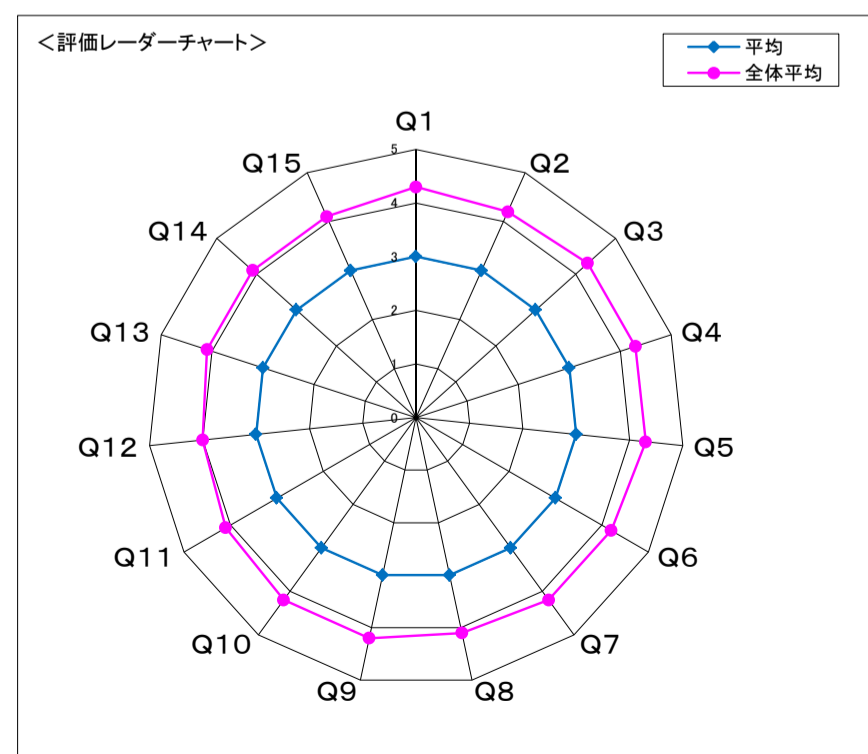
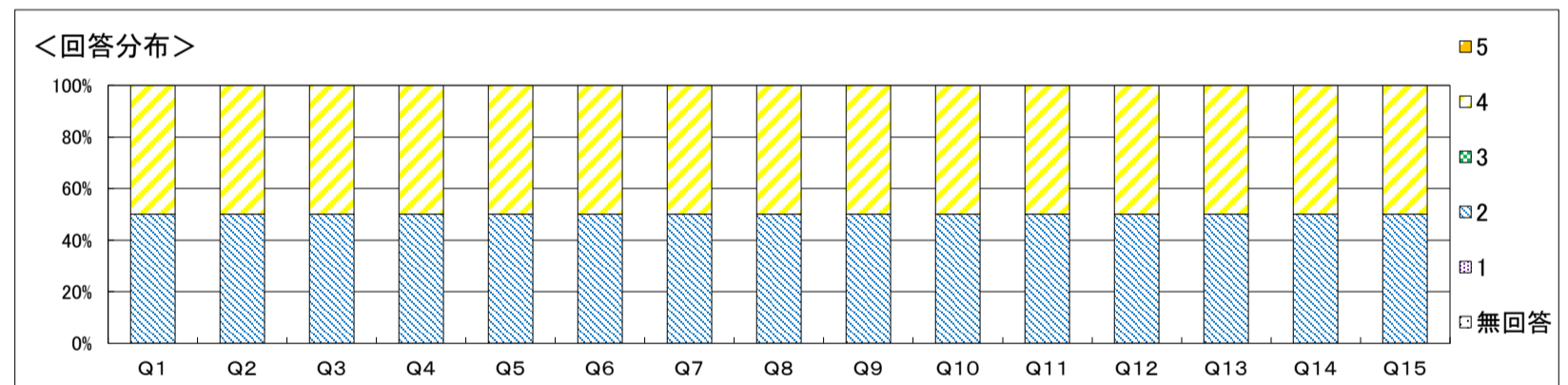
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 回答者2名、うち全項目4評価が1名、1評価が1名であった。回答者数が少数であることから履修者全体の評価とは言い難いが、全項目1評価とした院生があったことから、今後はさらに丁寧な授業展開をしていきたい。

科目名	(500020) 40000202F11200900 助産研究法		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	2人
必修・選択の別	必修	回収率	8.3%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	1	-	0	3.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	1	-	0	3.0	4.1



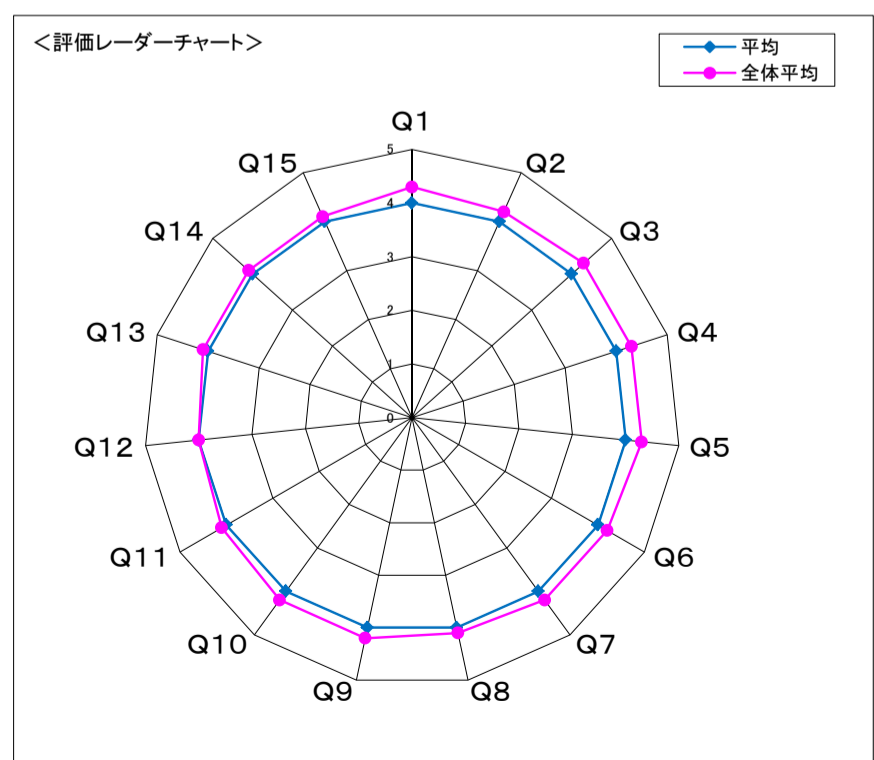
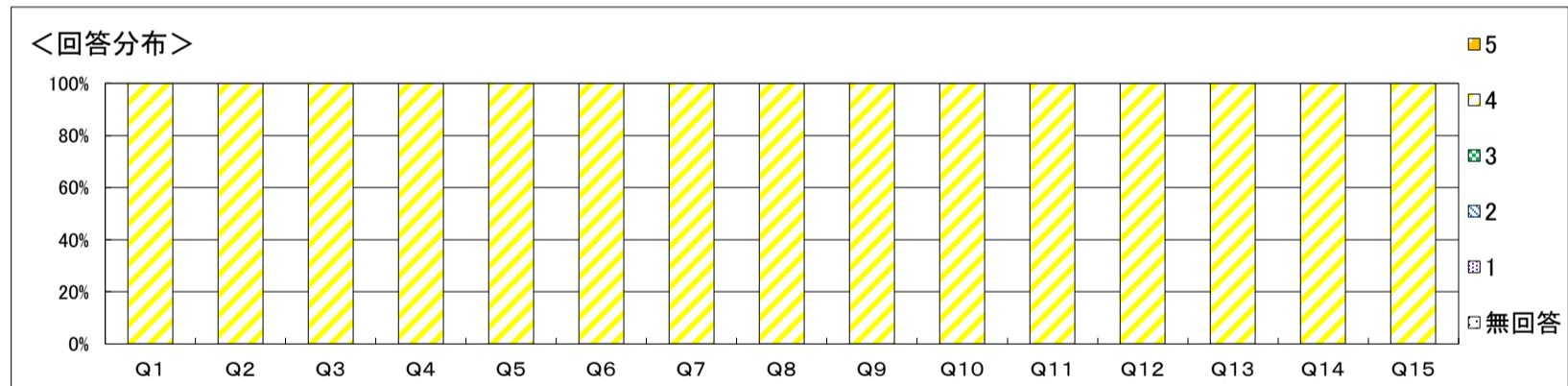
自由記載に関するコメント
 実践の学修課題が多い中で、専門職大学院とはいえ、高度実践家に必要な研究の思考、視点を意識して教授していたつもりだったのですが、研究そのものについての意義や関心を見いだせなかった人もいたことを認識しました。専門職大学院ではありませんが、「修士号」に相当する課程であり、研究的思考や執筆等の能力は重要と思いますが、学習者が納得して取り組むことができるよう、さらなる工夫が必要と理解しました。

結果全体に対するコメント
 2名のみ、しかもかなり極端な結果であったので、より多くの学生に回答してもらえよう、働きかける必要があります。専門職における研究の意義について、学生がどのようにとらえているかを把握し、納得して学修に取り組んでもらえるような授業の進め方を考えます。

科目名	(500021) 40000212F11300100 助産管理論 I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	4.2%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1



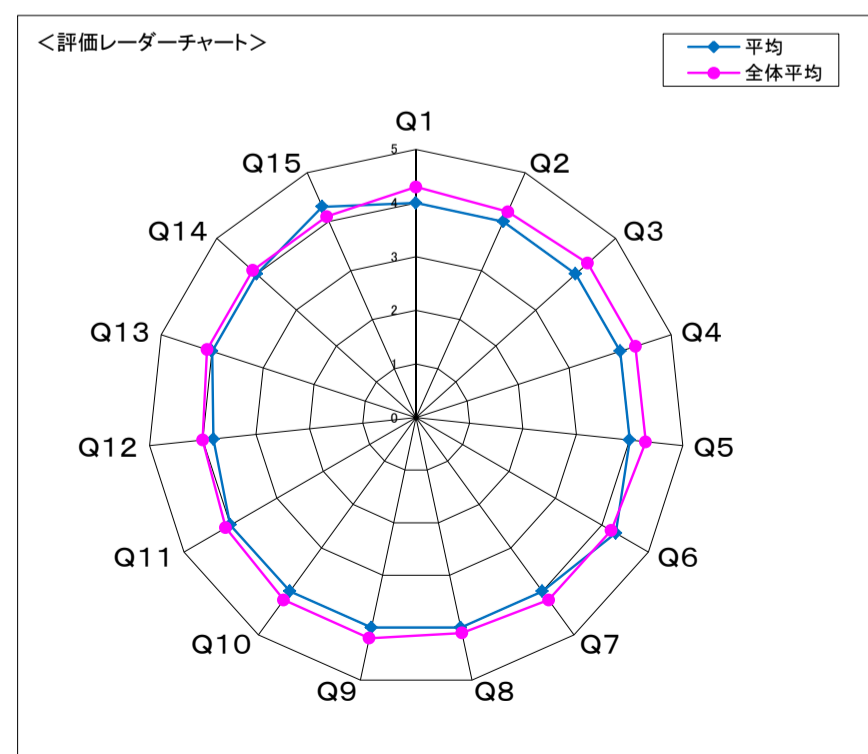
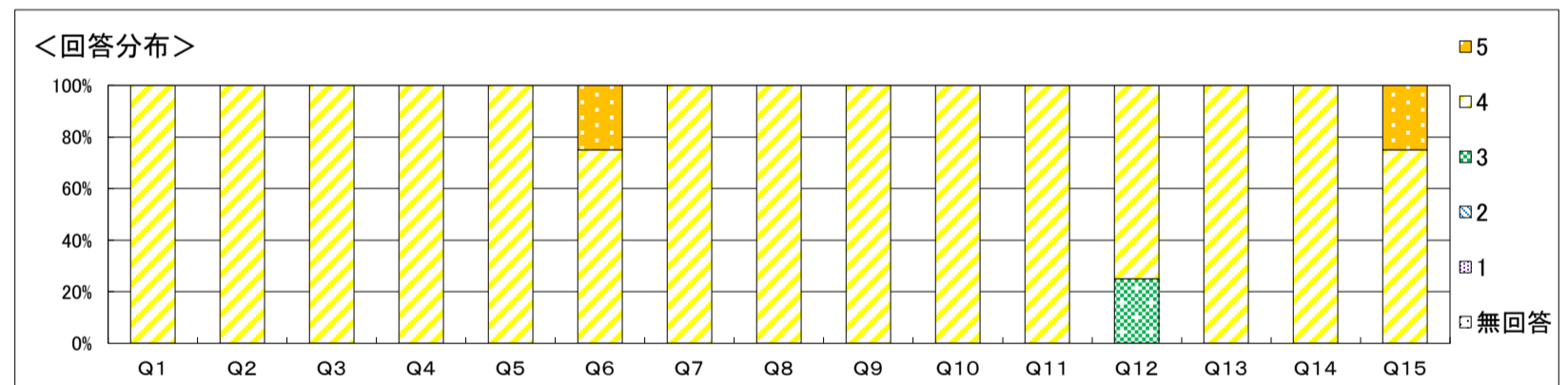
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 アンケートの回答率が1名と少ないので、授業到達目標が評価ができないことが課題です。方策として回答率を上げるように、授業終了時に学生に入力させる必要があります。

科目名	(500022) 40000222F11300500 母子保健行政・財政論		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	4人
必修・選択の別	必修	回収率	16.7%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	4	0	0	-	0	4.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	4	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	4	0	0	-	0	4.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	4	0	0	-	0	4.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	4	0	0	-	0	4.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	4	0	0	-	0	4.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	4	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	4	0	0	-	0	4.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	4	0	0	-	0	4.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	4	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	3	1	0	-	0	3.8	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	4	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	4	0	0	-	0	4.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1



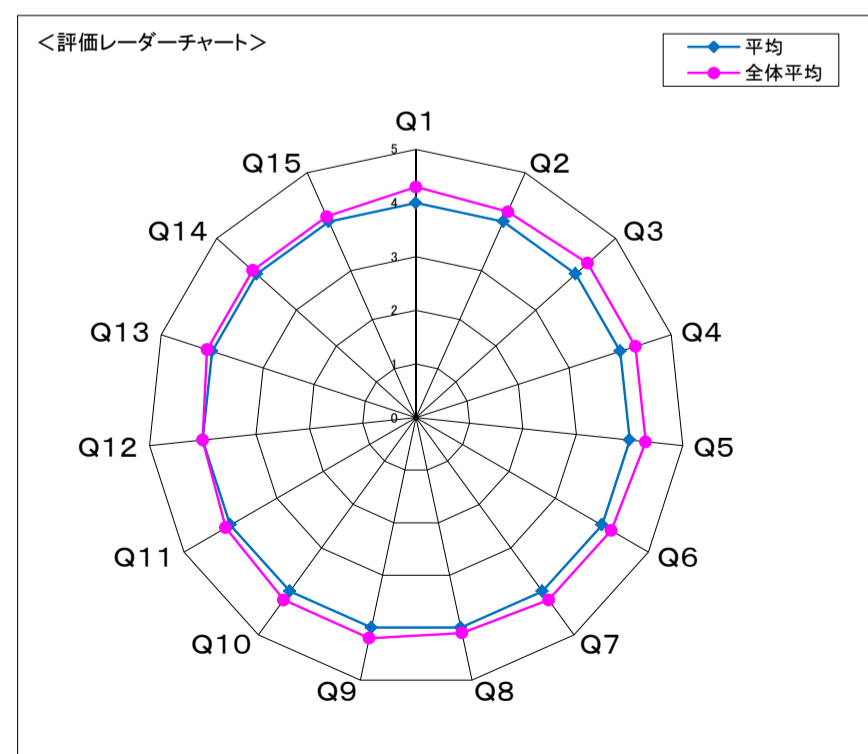
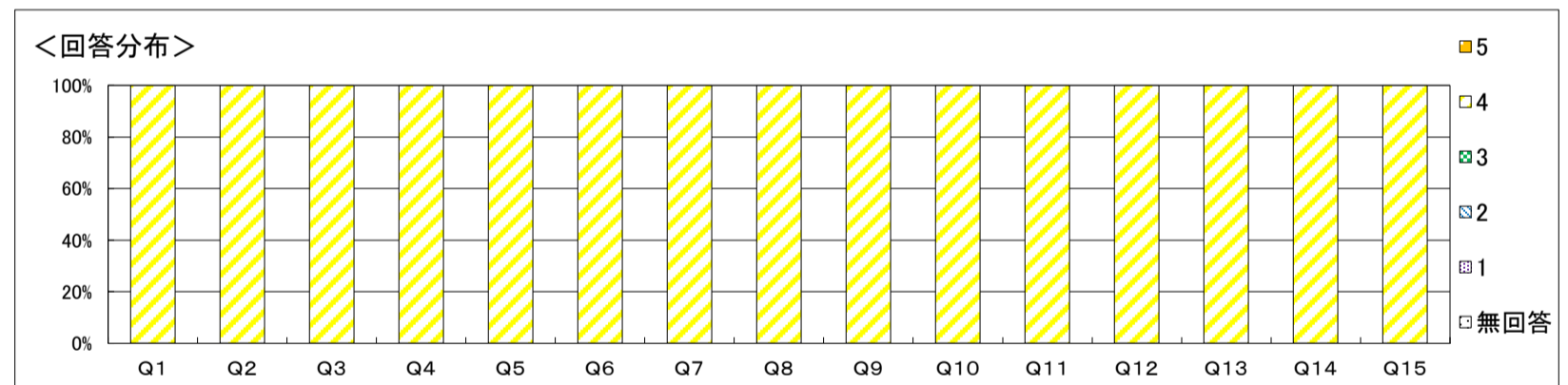
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 回答者4名であり、科目全他の評価とは言い難いが、今回の回答者でみる限り概ね高評価であった。指定図書を活用できるような事前学修等で指導していきたい。

科目名	(500023) 40000232F12100100 マタニティサイクル助産ケア I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	4.2%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1



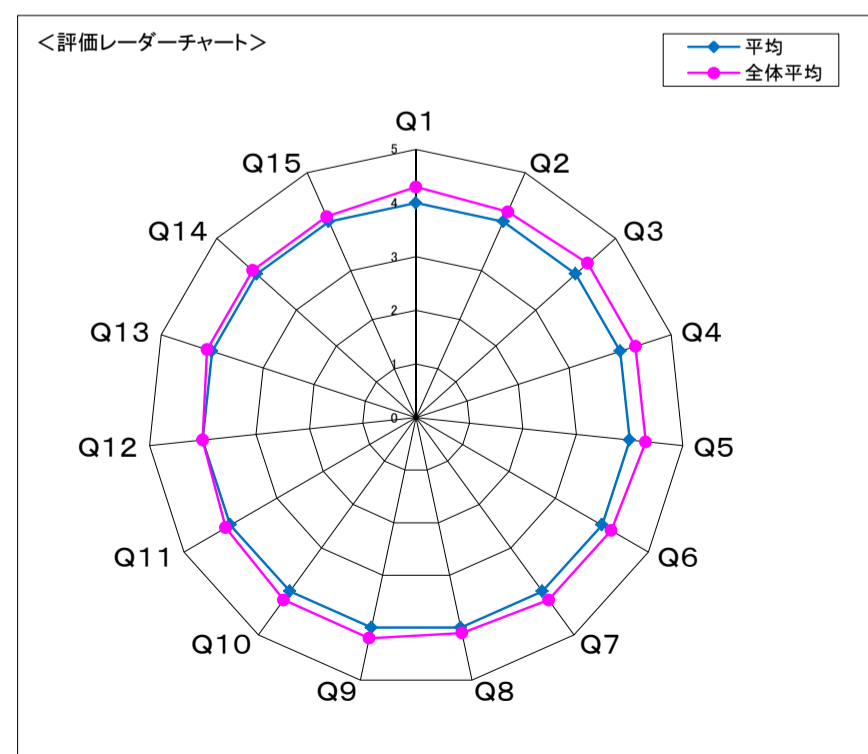
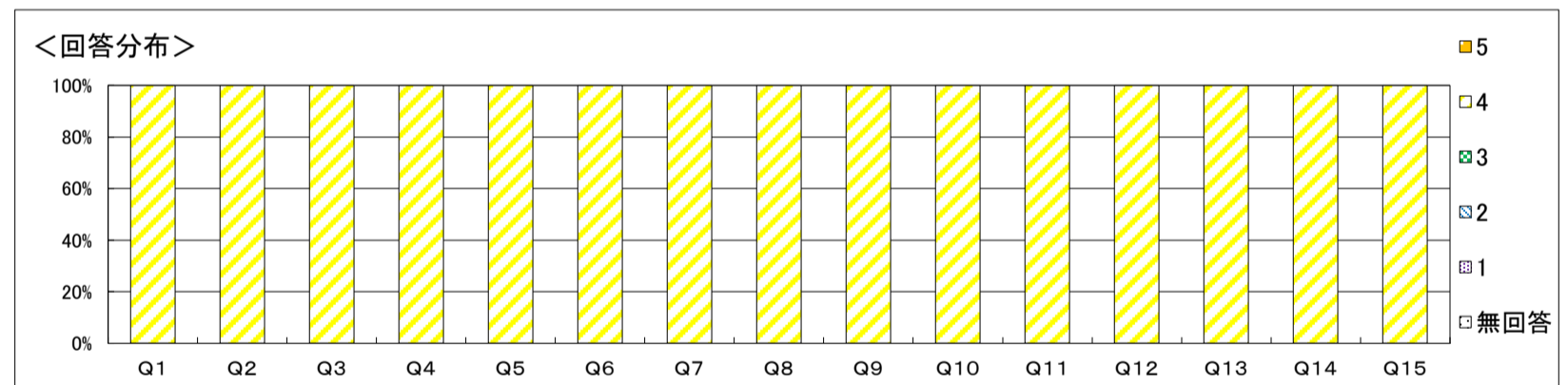
自由記載に関するコメント
なし

結果全体に対するコメント
回答が1名のみだったので、回答数を増やす働きかけが必要と思います。

科目名	(500024) 40000242F12100200 マタニティサイクル助産ケアⅡ		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	4.2%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1



自由記載に関するコメント

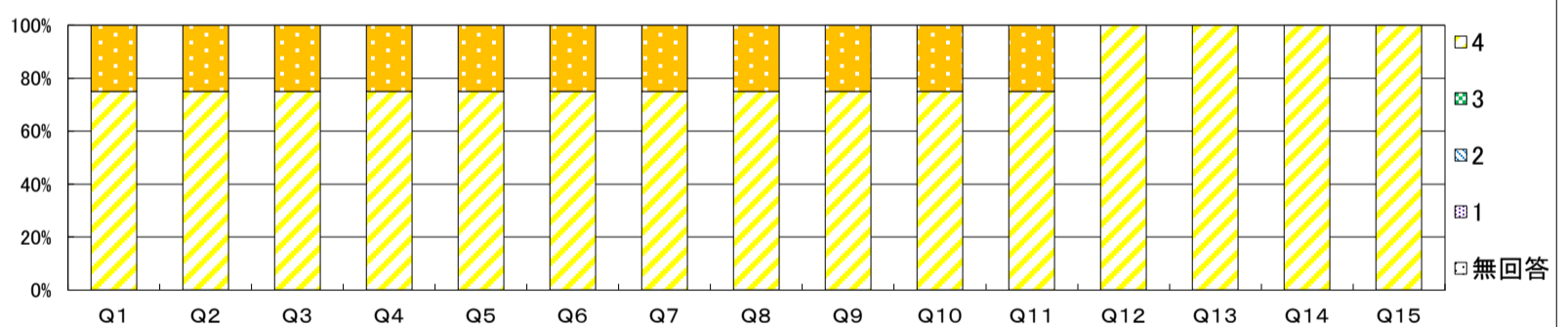
結果全体に対するコメント
 看護学生時、実習がほとんどできていない学生対象であり、分娩見学もほとんどの学生が経験がなかった。そのため、分娩第1期や分娩の進行について、授業で説明しても、手ごたえが感じられなかった。分娩DVD観覧を課題としたが、見ていない学生もいた。授業でもっと動画やDVDを有効に活用することが必要であったと感じる。アンケート回収数1人なので評価と言えないと考える。

科目名	(500025) 40000252F12100300 マタニティサイクル助産ケアⅢ		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	4人
必修・選択の別	必修	回収率	16.7%

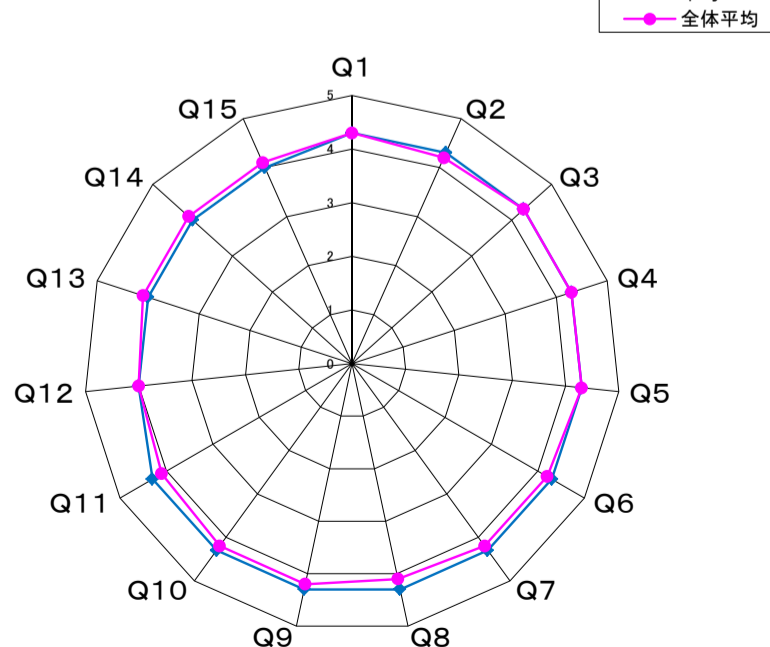
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	1	3	0	0	-	0	4.3	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.3
4. 授業の進行は適切だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	4	0	0	-	0	4.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	4	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	4	0	0	-	0	4.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	4	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

なし

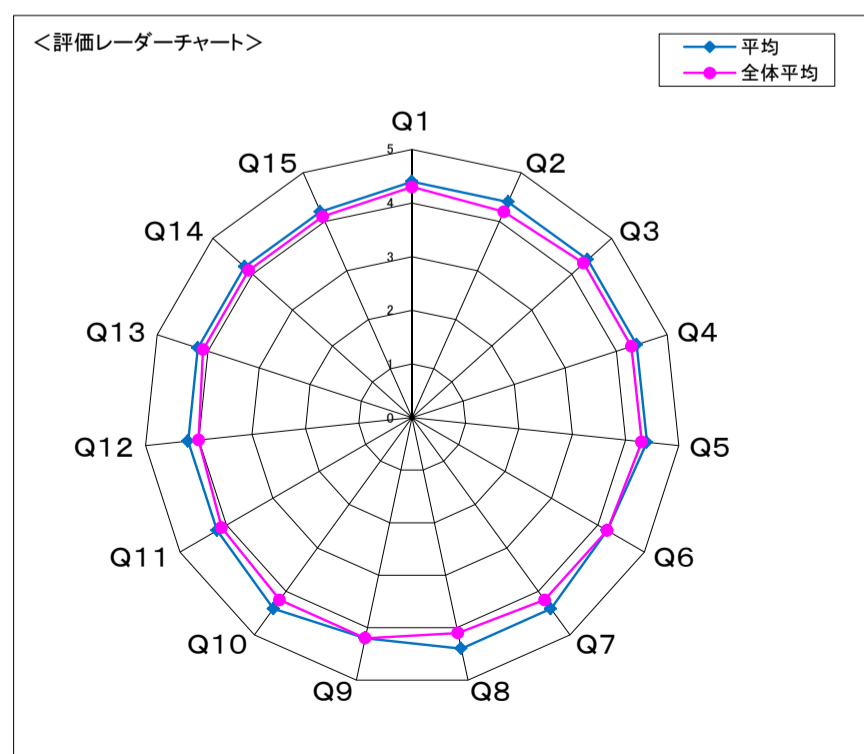
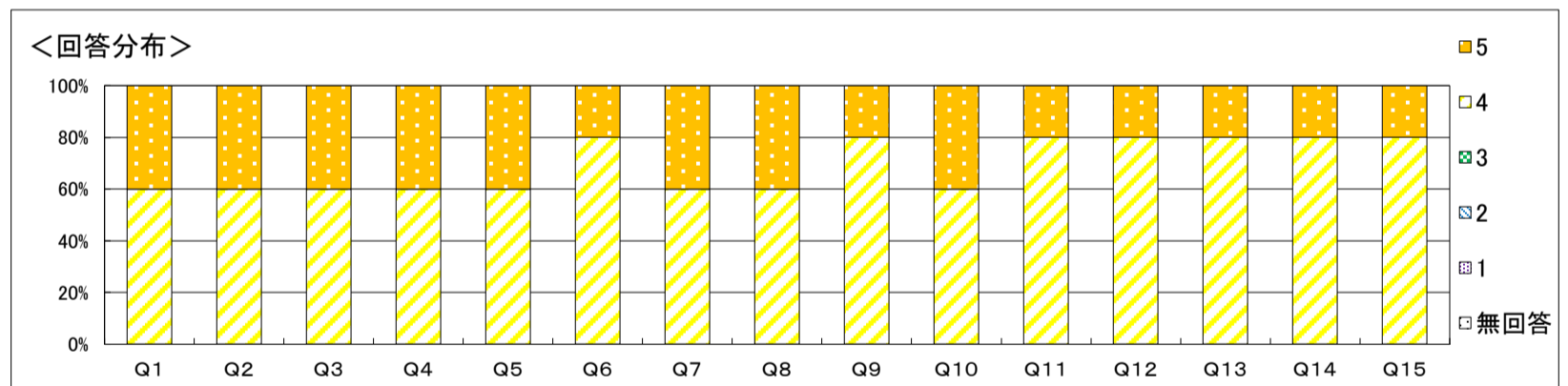
結果全体に対するコメント

最終試験まで受けた19名中4名(21%)のみの回答で、全体としては何ともいえない。全員「そう思う」とのこと、院生も自主的に勉強できたことは良かった。しかし、助産過程の展開の仕方などに課題があるので、今後は効果的な授業展開ができるように工夫する。また、最終試験後にアンケートへの協力を呼び掛けて、回収率をあげることが必要である。

科目名	(500026) 40000262F12100400 ハイリスク助産学 I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	5人
必修・選択の別	必修	回収率	20.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	2	3	0	0	-	0	4.4	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	2	3	0	0	-	0	4.4	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.3
4. 授業の進行は適切だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	4	0	0	-	0	4.2	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	2	3	0	0	-	0	4.4	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	2	3	0	0	-	0	4.4	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	4	0	0	-	0	4.2	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.1



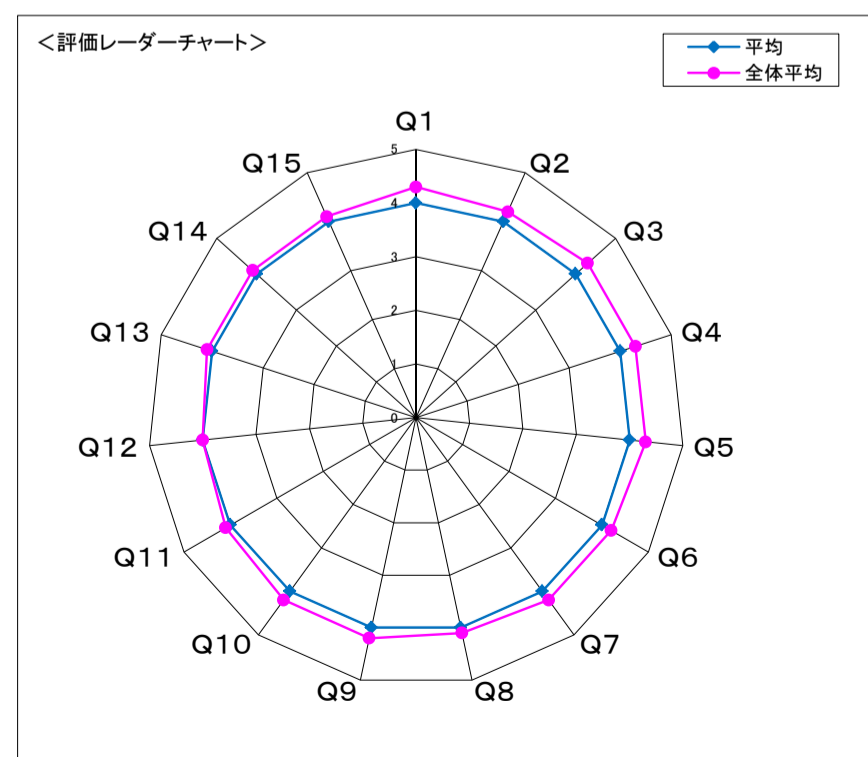
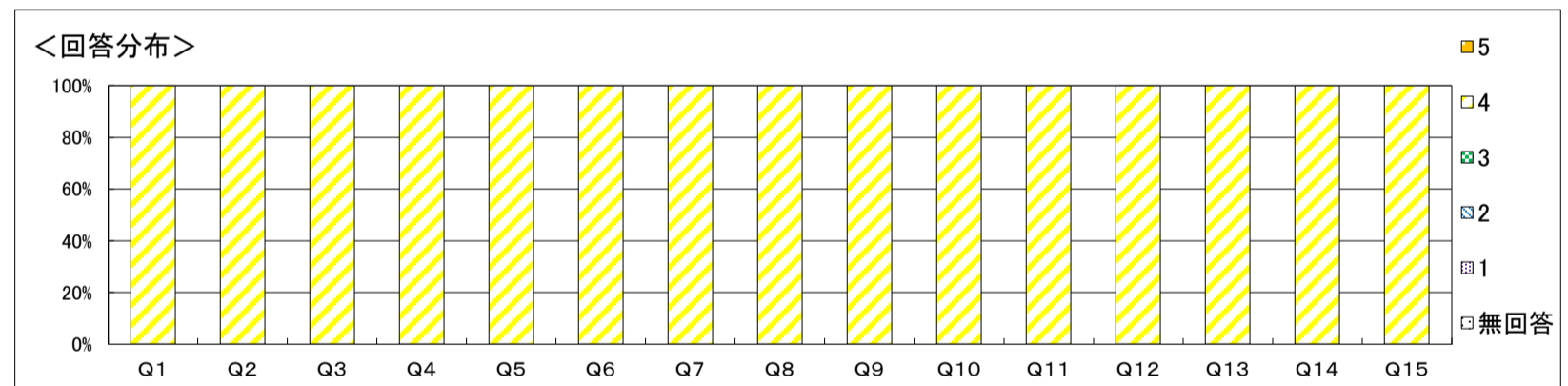
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 アンケート回答率が、20.8%であり、回答者が5名と少数なので、授業目標の到達を知ることができないことが課題です。方策として、授業後に学生にアンケートを確実に入力させる必要があります。

科目名	(500027) 40000272F12100500 ハイリスク助産学Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	4.2%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1



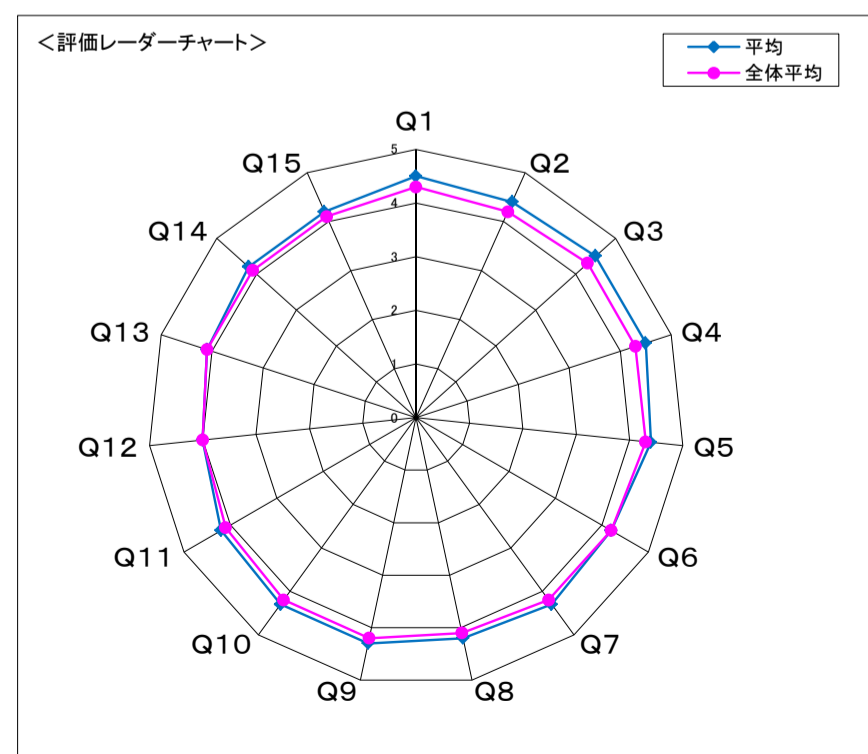
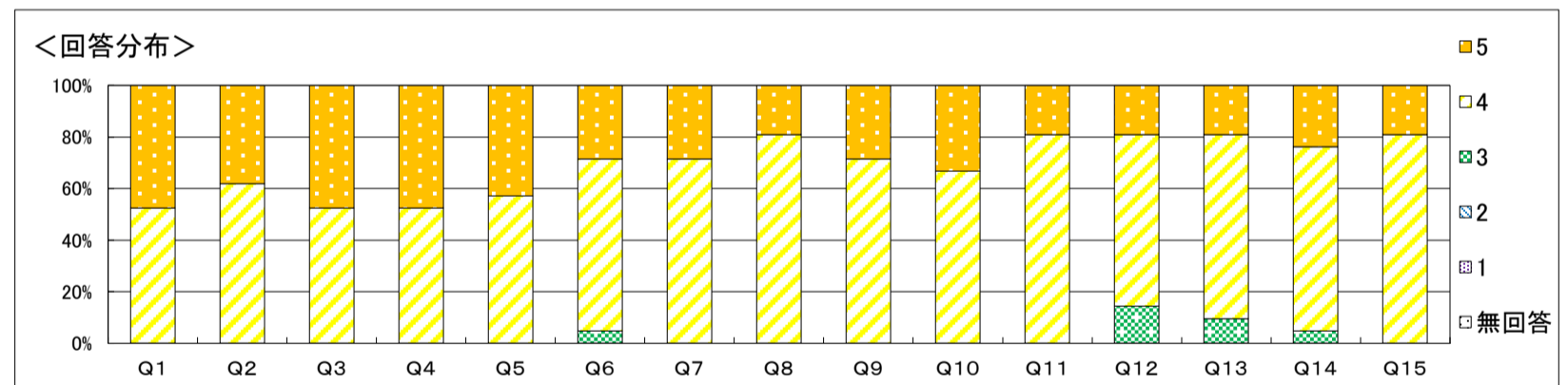
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 現役の医師や助産師が外部講師であるため、現場の具体的な話を交えた講義であり、学生の興味を引くことができていると考える。アンケート回収数1人なので評価と言えないと考える。

科目名	(500028) 40000282F13100100 子育て支援論 I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	21人
必修・選択の別	必修	回収率	87.5%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	10	11	0	0	-	0	4.5	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	8	13	0	0	-	0	4.4	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	10	11	0	0	-	0	4.5	4.3
4. 授業の進行は適切だった	10	11	0	0	-	0	4.5	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	9	12	0	0	-	0	4.4	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	6	14	1	0	-	0	4.2	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	6	15	0	0	-	0	4.3	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	4	17	0	0	-	0	4.2	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	6	15	0	0	-	0	4.3	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	7	14	0	0	-	0	4.3	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	4	17	0	0	-	0	4.2	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	4	14	3	0	-	0	4.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	4	15	2	0	-	0	4.1	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	5	15	1	0	-	0	4.2	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	4	17	0	0	-	0	4.2	4.1



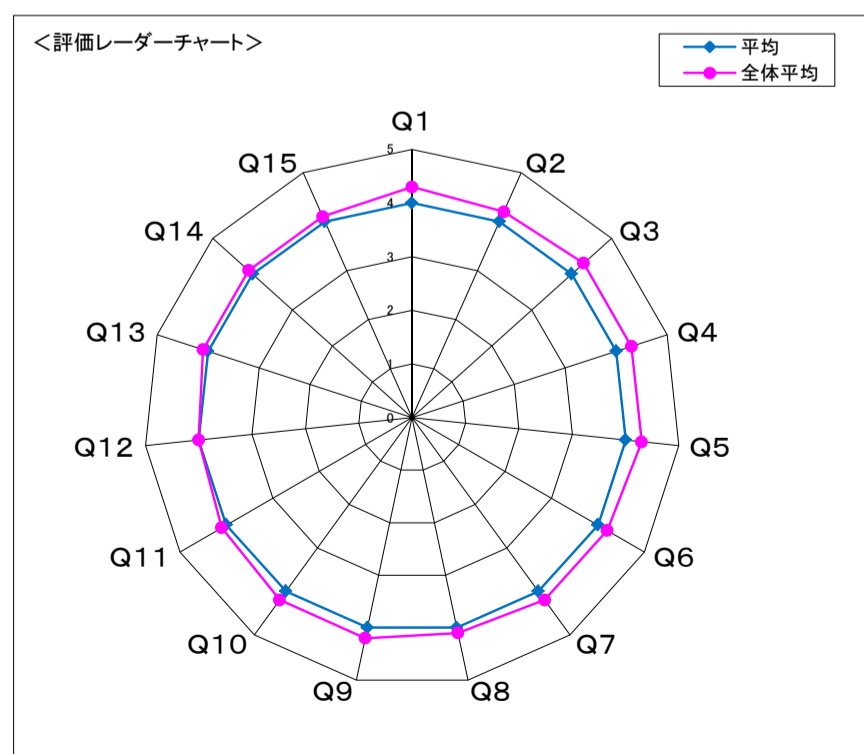
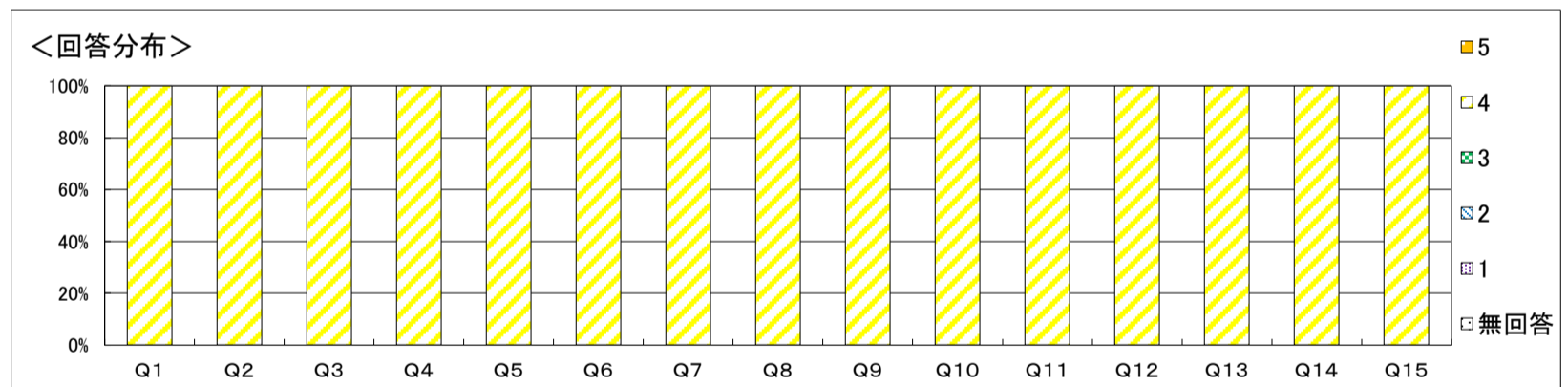
自由記載に関するコメント
なし

結果全体に対するコメント
履修者が24名となっているが、実際受講したのは21名で、全員からアンケートへの回答が得られた。概ね良好な回答であるが、1名視聴覚教材へ「そう思わない」としており、今後工夫が必要である。また、図書を活用した学習や自己学習を「あまりしなかった」としている院生がいるが、全員課題に大変良く取り組んでいた。学べたと思える授業となるように心掛けたい。

科目名	(500029) 40000292F13100700 ウィメンズヘルス I		
学科	助産研究科	履修者数	24人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	4.2%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1



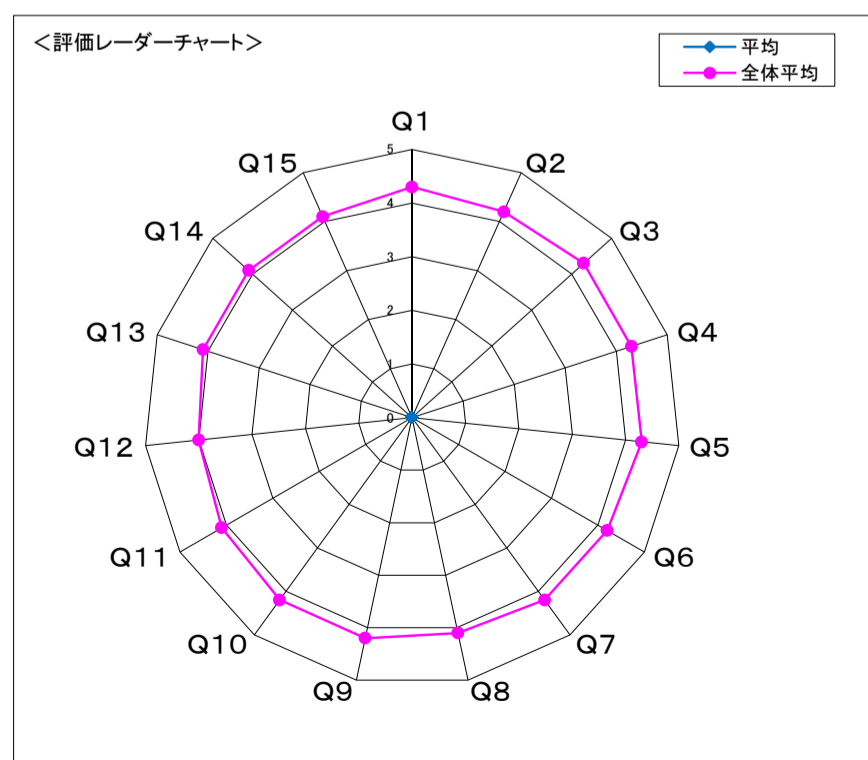
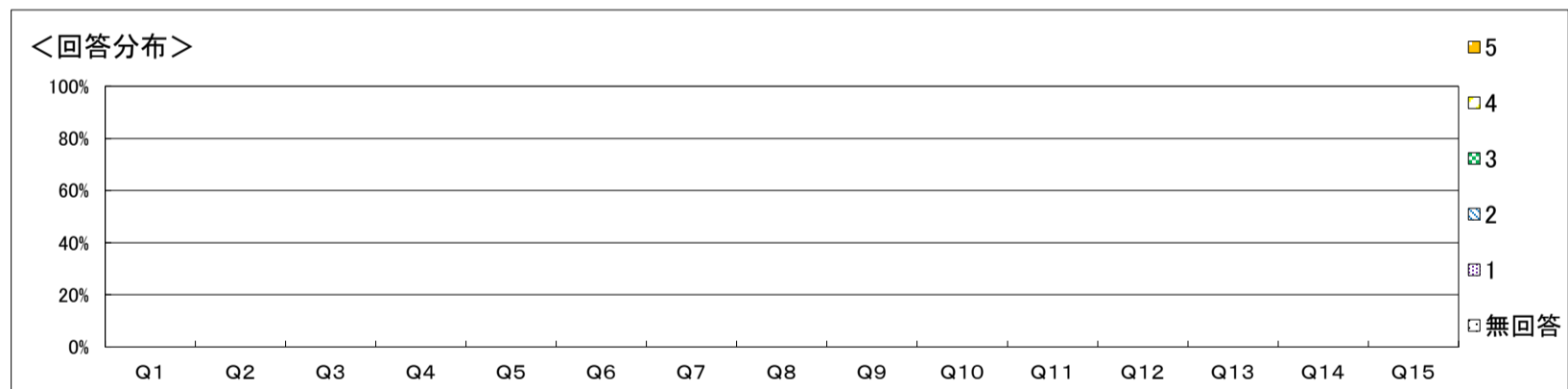
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 現役の医師や助産師が外部講師であるため、現場の具体的な事例や治療などの話を交えた講義であり、学生の興味を引くことができていると考える。アンケート回収数1人なので評価と言えないと考える。

科目名	(500030) 40000302F14100100 特別統合課題研究		
学科	助産研究科	履修者数	14人
学年	2	回収数	0人
必修・選択の別	必修	回収率	0.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
4. 授業の進行は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.2
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.2
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.2
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.2
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	0	0	0	-	0	0.0	4.0
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	0	0	0	-	0	0.0	4.1



自由記載に関するコメント
回答なし

結果全体に対するコメント
アンケートへの回答がなかったので、回答を促す働きかけについて検討します。